輝かしい功績の10年



朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社
チュチェ111(2022)

輝かしい功績の10年

朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社
チュチェ111(2022)

目　次

はじめに

敬愛する金正恩（キムジョンウン）総書記が社会主義朝鮮を導き始めた時からいつしか10年という歳月が流れた。

この10年間は、朝鮮にとって新たな変革と創造で満ちあふれた前進と激動の時代であり、国力が非常に強化され、社会主義強国の明日を確信できる日々でもあった。

それは決して条件と環境が特によかったからではない。

敵対勢力の比類なく厳しい制裁や封鎖と相次ぐ自然災害、数年続きの世界的な保健危機は朝鮮の前進を阻んでいた。

金正恩総書記は困難が立ちはだかるたびに、人民の進むべき道を明示し、たゆまぬ現地指導の道を歩み続けて、先頭に立ってあらゆる難関と試練を切り抜けてきた。

金正恩総書記は、偉大な領袖金日成（キムイルソン）主席と偉大な指導者金正日（キムジョンイル）国防委員長を永遠に高く仰ごうとする人民の念願を汲んで、金日成主席と金正日国防委員長が永生の姿で安置されている錦繡山太陽宮殿をチュチェの最高聖地として立派に整備するようにした。

そして、金日成主席と金正日国防委員長の革命思想を金日成・金正日主義と定式化し、その本質を人民大衆第一

主義と規定して、朝鮮労働党と国家の永遠なる指導思想、指導指針に深化・発展させた。

10年経てば山河も変わるという言葉があるように、朝鮮のこの10年間は、年ごとに目覚しい変貌を遂げながら絶え間ない前進の一路を歩んできた10年間であった。

今日、朝鮮に立ち上がった数多くの近代的な街と村、文化生活拠点、先端設備を備えた工場や企業は、10年前の朝鮮の姿を一新させた。

金正恩総書記によって開かれた建設の大繁栄期は、普通なら数十年もかかるそれらすべての創造物を10年という短期間に建設する成果をもたらした。

経済の各部門に対する金正恩総書記の精力的な現地指導は、自力富強の旗の下に社会主義経済の基盤をしっかりと固め、経済の持続的発展と人民の生活向上で大きな前進を遂げるようにした。

敵対勢力の恒常的な核の威嚇を最終的に制圧するための金正恩総書記の並々ならぬ労苦と献身によって、国家核武力の完成という歴史的偉業が実現し、朝鮮半島と地域の平和と安全のための確固たる保障がもたらされた。

金正恩総書記は、大胆な決断と頑強な実践力をもって朝鮮統一の新たな転機を開き、自主の旗印を高く掲げて精力

的な対外活動を行い、朝鮮の地位をかつてなく高めた。

すぐる10年間、朝鮮人民と世界は金正恩総書記の思想・理論の非凡さと特出した指導力を目の当たりにすることができた。

朝鮮人民は、これまでの10年に比べてより素晴らしく、より強くなるこれからの10年、20年を確信に満ちて見通している。

編集部は、最も厳しい状況下で最も輝かしい勝利を収めたこの10年間の道程に記された金正恩総書記の献身の足跡を振り返りつつ、本書を刊行することにした。

歴史的な転機

2011年末、金正恩総書記は全人民の一致した念願によって、朝鮮の運命を一身に担うことになった。

世界の関心は朝鮮に向けられた。その焦点は、果たして朝鮮はどの道を進むだろうかということであった。なぜなら、朝鮮は世界で最も強硬な社会主義の砦であるからである。

国土や人口、経済の面から見てさほど大きくない朝鮮が政治の面においても経済や軍事の面においても世界を左右する敵対勢力と単独で立ち向かっていたのである。

金正日国防委員長の逝去後、敵対勢力はあらゆる面から朝鮮に圧力を加え、すでに選択した道を放棄することを露骨に強要してきた。客観的な視点では、朝鮮があたかも岐路に立たされた古代ギリシアのヘラクレスのように見えたかもしれない。

朝鮮が果たして自分の選択を守り通すことができるだろうか。

世界の耳目が朝鮮に注がれていた時、金正恩総書記が最初に手がけた事業がある。

それは、金日成主席と金正日国防委員長が生前の姿のま

ま安置されている錦繡山記念宮殿をチュチェの最高聖地として立派に整備し、金日成主席と金正日国防委員長の革命思想を寸分の狂いもなく継承していくことであった。

太陽の歴史が永遠に流れるように

朝鮮人民は、金正日国防委員長を金日成主席が永生の姿で安置されている錦繡山記念宮殿に安置することを願ってやまなかった。

金正恩総書記は、人民のこの切なる念願を汲んで金正日国防委員長を生前の姿そのまま錦繡山記念宮殿に安置し、錦繡山記念宮殿を**「錦繡山太陽宮殿」**と命名するようにした。

そして、全国人民のこのうえない忠誠心を込めて、錦繡山太陽宮殿を荘厳かつ完璧に整えるための活動を精力的に導いた。

総書記は、金正日国防委員長を生前の姿で安置する永生ホールを最高の水準で整える問題をはじめとして、金日成主席と金正日国防委員長の立像を建てるホールを改造する問題、慟哭の間を一層厳かに整える問題、金日成主席と金正日国防委員長の勲章保存室と最後の時期まで現地指導や外国訪問の際に利用した乗用車と電動車、船、列車の保存室を整える問題、金日成主席と金正日国防委員長の生涯と風格を示す写真を掲げる問題に至るまで労苦を尽くし、心血を注いだ。

錦繡山太陽宮殿を永遠なる太陽の家に整えるために真心を尽くした総書記は、2012年の１年間だけでも40回以上現地へ出向いて具体的な指導を行った。

金日成主席と金正日国防委員長の立像ホールを改造する時のことである。

立像ホールは錦繡山太陽宮殿を訪れる人々が真っ先に入る所である。

総書記は、どうすれば親しみや慈愛に満ちた金日成主席と金正日国防委員長の姿が表れるように立像を形象化できるかについて思索を重ねた。

2012年1月初め、立像形象化の方向を示した総書記はその後、直接現場に出向いて細心の指導に当たった。

金正日国防委員長の立像を見た総書記は、金日成主席と金正日国防委員長の立像は微笑む姿で形象化するのがよいと言った。

そして、金正日国防委員長をメガネをかけた姿に形象化することをはじめ貴重な教えを与えた。

総書記の限りない忠誠心と細心の指導によって、金正日国防委員長の1周忌に際して行われた錦繡山太陽宮殿の開館式の時に明るく微笑む金日成主席と金正日国防委員長の立像が立派に建てられ、その後立像は天然色で丁重に形象化された。

総書記は金正日国防委員長を、日頃着ていて人民に親しまれた服、限りない素朴さとあらゆる労苦が滲んでいるジャンパー姿で安置することにした。

いつか金正日国防委員長は、私にはまだ背広を着る余裕がない、今は革命の時代だ、革命の時代なので私にはなすべき仕事が山積している、仕事を多くするには戦闘的な服装をするのがよい、私が着ているジャンパーは戦闘服のようなものだ、私は活動型の服がよい、と言ったことがある。

祖国と人民への限りない献身と愛が脈打つこのような意志を持っていたので、金正日国防委員長は地味なジャンパーを着て過ごしたのである。

それゆえ、ジャンパーを着ている金正日国防委員長の姿は朝鮮人民の心にあまりにも強く焼き付けられていた。

金正恩総書記は、生前の姿のまま安置されている金正日国防委員長の近くにその事績物を展示することで、人民が子々孫々金正日国防委員長の労苦と不滅の業績を胸に刻み付けるようにした。

金正日国防委員長は生涯、祖国と革命、世界の自主化偉業を導く過程で多くの貴重な事績物を残した。

その中で特に意義を持つ事績物は、金正日国防委員長が利用していた乗用車と列車、電動車と船であった。

金正日国防委員長が生涯の最後の時期まで利用した列車と乗用車を保存するホールを立派に整えることについて強調した総書記は、数回にわたって列車と乗用車、電動車の保存室を整える上で提起される問題を優先的に解決した。それればかりでなく、列車保存室の整備工事の最中には再び錦繡山太陽宮殿に出向いて直接工事の指導に当たり、金正日国防委員長が裁可した文書や利用した事績物を全て原状どおりに列車の中に保存するようにした。

列車には、金正日国防委員長の体臭がしみている野戦防寒服やジャンパー、靴や手袋、卓上の文書や筆記用具、メガネ、そして、今も金正日国防委員長を待っているかのように回っている時計が展示された。

総書記は、金正日国防委員長が利用した船の保存室を整えることにも深い関心を払った。船をそのまま移す問題、船保存室を増築する問題、船を埠頭から見下ろすように展

示する問題、水面を青黒い色にし、船の前進方向に沿って波の模様を描く問題、船保存室の壁面には船に乗って現地指導の道を続ける金正日国防委員長の写真を掲げる問題、船内が見えるようにする問題、足場を取り付ける問題など、事績船を保存する上で提起される全ての問題について細心の指導を行った。

総書記はまた、錦繡山太陽宮殿には金日成主席と金正日国防委員長の革命事績に関する写真を掲げなければならないとし、写真の内容と白黒写真をカラー写真にする問題、写真の額縁の形式、写真説明文の内容や大きさに至るまで細やかな指導を行った。

そして、金正日国防委員長の勲章保存室を新しく整えるとともに、金日成主席の勲章保存室もより立派に再整備するようにし、その形成案と保存方法などを具体的に教えた。宮殿の正面壁に金日成主席と金正日国防委員長の太陽像を掲げる問題、宮殿広場の幹部壇の下部に大元帥星とオオヤマレンゲ、軍旗を浮き彫りにする問題、宮殿の正面に朝鮮民主主義人民共和国国章を取り付ける問題、宮殿の電飾を立派に施す問題などにも気を配った。

2012年3月のある日、幹部たちと席を共にした総書記は、錦繡山太陽宮殿は金日成主席と金正日国防委員長を生前の姿で安置した太陽の宮殿であるので、人民がいつでも訪れるように宮殿の広場を常時開放しなければならないと言った。

金日成主席と金正日国防委員長は人民と血縁の関係を結んでいた。

いつか金日成主席は、趣味はなにかという外国記者の質問に、読書を好み、人民の中に入って人民と共に過ごし語り合うのが趣味だ、本が無言の教師であるなら、私にとって最も知恵深い博識な教師は人民である、人民の中には哲学もあり、経済学もあり、文学もある、それで私は常に人民の中に入って人民から学んでいると語っている。

金正日国防委員長も、私はいつも人民と共にいたい、建設場へ行けば労働者と共に骨が折れるほどもっこをかつぎたい、スポーツ競技を観れば選手と一緒にひとしきり走りたくなる、娯楽会を見れば彼らと付き合って一曲歌ってみたい、とりわけ夜遅くまで仕事をして疲れが溜まったり頭が痛い時には人民のいる所を訪ねたい衝動に駆られる、と語っている。

人民と結ばれたこの断ち切れない血縁の関係と人民の願いを推し量った総書記は、錦繡山太陽宮殿を金日成主席と金正日国防委員長がいつも人民と共にいる聖地にするため

に、錦繍山太陽宮殿の周辺を公園化するよう提唱してその設計形成案を検討し、工事の全過程を細かに指導した。

こうして、錦繍山太陽宮殿の正面に掲げられた金日成主席と金正日国防委員長の太陽像を中心軸にし、中央には各種の珍しくて美しい花が咲いた花壇がつくられ、その両側に緑の絨毯を敷いたような新品種の芝生が広がり、その中に特色のある噴水彫刻『大元帥星を守る軍旗手』が設けられ、モミ、ハリモミなど良種の木々の中に休憩場が設けられた宮殿広場が建設された。

金正恩総書記は、朝鮮人民の心の中に金正日国防委員長の英姿が永遠なる太陽の姿として刻み付けられるようにした。

金正日国防委員長が逝去した時、朝鮮には金正日国防委員長の銅像はおろか、太陽のように微笑む肖像もなかった。金正日国防委員長は自分のためのことはいささかも許さず、金正日国防委員長の太陽像や銅像を建てようとする人民の忠義のこもった提起も絶対に受け入れなかったのである。

それで金正日国防委員長の逝去直後、朝鮮人民は慈愛深い人民の指導者を失った痛心を金日成主席の銅像や永生祈念塔、モザイク太陽像を訪ねて表するしかなかった。

2011年12月20日、『労働新聞』には太陽のように明るく微笑む金正日国防委員長の肖像が掲載された。同時に、金日成広場と党創立記念塔、4・25文化会館、平壌体育館をはじめとする平壌市の多くの野外弔意式場に金正日国防委員長の太陽像が掲げられ、ついで各道都や重要機関・企業の弔意式場にも掲げられた。

その後、全国各地に金日成主席と金正日国防委員長の慈愛に満ちた姿を形象化したモザイク壁画が建立され、**「偉大な金日成同志と金正日同志は永遠にわれわれと共におられる」**という不滅の文字を刻んだ永生祈念塔が建てられた。

朝鮮人民は久しい前から金正日国防委員長の銅像を建てることを願い、その気持を熱烈に吐露した。しかし、金正日国防委員長が逝去する時まで銅像は一つも建てられていなかった。

総書記は人民の念願を汲み取って国の至る所に金正日国防委員長の銅像を金日成主席の銅像と共に建てるようにした。

金正日国防委員長の銅像を金日成主席の銅像と共に建てる上で総書記が原則としたのは、一番素晴らしい場所、周辺環境がよいばかりでなく、数多くの人民が訪れる場所に建てるということであった。

総書記は、金正日国防委員長の銅像を建てる場所をいろいろと考えてみたが、金日成主席と金正日国防委員長の銅像を新しく形象化して万寿台の丘に並べて建てるのが一番望ましいと言った。

平壌の全景が一目に見渡され、前方には牡丹峰をはさんで美しい大同江が流れ、立ち昇る朝日の陽光が真っ先に照らされる万寿台の丘は、金日成主席の銅像があって人民がうれしい時もつらい時も訪ねてくる場所であった。

総書記は、万寿台の丘に建てる金日成主席と金正日国防委員長の銅像を明るく微笑む姿で新たに形象化するようにした。

そして、数回にわたって銅像制作現場に出向き、銅像形象化の細部に至るまで絵を描きながら具体的に教え、自ら選んだ写真資料も送った。

2012年4月9日の早朝、万寿台の丘に足を運んだ総書記は、広い教育の場で位置を変えながら何度も金日成主席と金正日国防委員長の銅像を眺め、銅像が立派に建てられた、特に金正日国防委員長の銅像は大型銅像であるにもかかわらず細部が生かされるように形象化したのがよい、金正日国防委員長の英姿が生前の姿のままはっきり表現されていると満足の意を表した。

それから数日後の4月13日、金正恩総書記の臨席の下に平壌の万寿台の丘では、金日成主席と金正日国防委員長の銅像除幕式が盛大に執り行われた。

白い幕が取り去られ、明るい笑顔で祝福を送る金日成主席と金正日国防委員長の慈愛に満ちた姿が現れると、除幕式の参加者は激情にあふれて万歳の歓呼を上げ、荘厳な祝砲の音が響く中で色とりどりのゴム風船が飛び立って万寿台の上空を美しく飾った。

金日成主席の生誕100周年慶祝行事に招かれ、万寿台の丘で挙行された金日成主席と金正日国防委員長の銅像除幕式に参加したロシアの一詩人はこのように書いた。

「除幕式が挙行された日の夜、私はどうしても眠れなかった。

人々の胸を痛めるようなもろもろの出来事は、歴史のこけの中に埋もれて消えるのではない。かつてマルクスの遺体が異国の地ロンドンのハイゲート共同墓地に埋葬され、エンゲルスの遺骨をドーバー海峡に流したという事実はヨーロッパ人を悲しませた。

革命の背信者たちがスターリンの遺体を火葬に付し、彼の銅像を全てなくしてしまった行為を見て、志ある人たちは怒りを抑えることができなかった。

こうした事実と照らし合わせてみる時、今日の平壌の銅像除幕式は実に大きな対照をなし、世界を感動させている。

国家と民族のために卓越した業績を積んだ領袖は生き続けなければならない。それは領袖の永生にその国の人民の幸福、未来がかかっているからである。

朝鮮において金正日同志の逝去後、その銅像が建立されたのは、ほかならぬこの聖なる偉業の実現に向けた明確な証拠だと思う。

領袖への気高い道義心を抱いている金正恩同志の特別な関心の下で、金正日同志の銅像を建てることを願ってやまなかった朝鮮人民の切望は遂に実現したのである。

敬愛する金正恩同志は全朝鮮人民の願いを汲み、平壌中心部の万寿台の丘に金日成同志の銅像と金正日同志の銅像を並べて建てることに深い関心を向けたという。

人類の歴史を顧みると、銅像は一般的にいかめしい姿で形象化されている。

しかし、金正恩同志は歴史の前例にならうことなく、太陽として万民の称賛を受けていた領袖たちであったがゆえに、お二人の銅像を明るい微笑をたたえた太陽の姿として形象化するようはからったのだという。

実に高潔崇高な忠誠の世界だと言わざるを得ない」

その後、朝鮮では各道都や重要機関に金日成主席と金正日国防委員長の銅像が丁重に建てられ、2016年9月には金正日国防委員長の故郷である三池淵市にその銅像が建てられた。

今日、朝鮮人民はいつどこにあっても太陽のように明るく微笑む金日成主席と金正日国防委員長の慈愛深い姿から力と勇気を得、金正恩総書記の指導に従って社会主義強国をうち建てる誓いを立てている。

思想と路線の深化・発展

金日成主席によって創始され、朝鮮の現実に立派に具現されたチュチェ思想は朝鮮労働党の唯一の指導思想である。

金正日国防委員長はチュチェ思想を全面的に体系化して金日成主義と定式化し、時代と現実の発展に即して新しい思想と理論を打ち出し、金日成主義を絶えず発展させ豊富にした。

金日成主義が自主性を志向する世界の進歩的人民の進路を明示する灯台として世界的範囲で研究・普及されているのは、金日成主義の深化・発展のために精力的な思想・理

論活動を展開してきた金正日国防委員長の特出した功績を抜きにしては考えられない。

金正恩総書記は、金正日国防委員長の思想・理論活動によってその幅と内容がさらに豊かになった金日成主義を金日成・金正日主義と定式化した。

金日成・金正日主義の古典的定式化は、金日成主席と金正日国防委員長の革命偉業への限りない忠誠心を持ち、金日成主席と金正日国防委員長の革命思想をお二人の尊名と結び付けることを第一の重大事と見なした金正恩総書記の非凡な思想的・理論的英知と精力的な思想・理論活動のたまものである。

総書記は、金日成・金正日主義を朝鮮革命の永遠なる指導思想と定式化するとともに、金日成・金正日主義の革命的本質を人民大衆第一主義と規定した。

歴史の主人である人民大衆の地位と役割が非常に高まった今の時代の要請が徹底的に反映されている金日成・金正日主義は、全ての原理と内容が人間、人民大衆を中心に据え、その役割を基本として展開されている。

それゆえ金日成・金正日主義は、人民大衆の構成員であるなら誰でもすぐ共感し受け入れられる正当かつ普遍的な、生命力のある時代の思想である。

金日成・金正日主義が人民大衆第一主義であるというのは、人民大衆をこの世で最も貴重かつ力強い存在として押し立て、あらゆるものを人民大衆に奉仕させ、全ての問題を人民大衆に依拠して解決するという思想である。

金日成・金正日主義によって初めて、人民大衆は働く人々を基本に、自主的要求と創造的活動の共通性によって結合した社会的集団であるということが明らかになり、人民大衆をこの世で最も貴重かつ力強い全知全能の存在と見て対するという思想が示されるようになった。

また、金日成・金正日主義の全ての原理と原則、内容は国家と社会のあらゆるものが人民大衆に奉仕すべきであるということで貫かれている。人民大衆への献身的奉仕、これが金日成・金正日主義が掲げる崇高な理念であり、それゆえ金日成・金正日主義は名実共に人民大衆第一主義思想となるのである。

また金日成・金正日主義は、人民大衆を党と領袖の周りに固く結束し、彼らの自主的な思想意識と創造的能力を高めなければならないということを明らかにした。

金日成・金正日主義は、人間、人民大衆の活動を基本にして全てを考察して対応する認識と改造の最も一般的な方法論を与えるばかりでなく、人民大衆の創造的役割を最大限に

発揚させるための原理と原則、方向と方途を明示した。

金日成・金正日主義は、人民大衆中心の朝鮮式社会主義の現実に立派に具現され、その正当性と生命力が遺憾なく発揮されている。

今日、朝鮮では革命発展の新しい要求に即して、人民大衆第一主義を現実に徹底的に具現するための闘争が力強く展開されている。

朝鮮人民はこの偉大な現実を目の当たりにしながら、金日成・金正日主義が「人民」という語と共に永遠に不滅であるということを確信している。

金正恩総書記は、金日成・金正日主義の構成体系と内容を明らかにした。

金日成・金正日主義は、金日成主席によって創始され、金日成主席と金正日国防委員長によって深化・発展してきたチュチェ思想と、それによって明らかにされた革命と建設に関する理論と方法の全一的な体系である。

金日成・金正日主義は、朝鮮労働党の最高目的である人民大衆の自主性が完全に実現した社会の真面目とその建設の合法則的道程、社会主義の偉業遂行の全過程において確固と堅持すべき戦略と闘争方針ばかりでなく、指導方法を科学的に明示した革命思想である。

今日、金日成・金正日主義はチュチェ革命偉業の最終的勝利を目指す朝鮮人民の闘いを力強く励ます思想的・理論的武器となり、自主と社会主義を目指す諸国人民の闘争の前途を全面的に明示する現代の完成した革命思想、革命理論となっている。

金正恩総書記は朝鮮労働党第7回大会で行った中央委員会の活動報告で、偉大なチュチェ思想に基づいて社会主義偉業の最終的勝利のための革命理論と指導方法を全面的に体系化し、社会生活の各分野を人民大衆の自主的志向と要求に即して革命的に改造・変革していく道を明示しているところに、われわれの時代の完成した革命の指導思想としての金日成・金正日主義の特出した歴史的地位と百勝の威力があると言及した。

金日成・金正日主義は、帝国主義の強権と力の政策がまかり通る今日の世界において、人民が身に付けるべき世界観から革命と建設で堅持すべき根本的立場や政治方式に至るまで全ての理論的・実践的問題を完璧に解決したことにより、時代の永遠なる闘争の標柱となっている。

金正恩総書記は、金日成主席と金正日国防委員長が打ち出した革命と建設に関する路線を新時代の要求に即して深化・発展させた。

金日成主席は1962年12月の朝鮮労働党中央委員会第4期第5回総会で、帝国主義の侵略から革命の獲得物を揺るぎなく守り、社会主義建設を成功裏に推し進めるために、経済建設と国防建設の並進路線を打ち出した。

金正日国防委員長は2003年8月、国防工業を優先的に発展させながら、同時に軽工業と農業を発展させるという先軍時代の経済建設路線を打ち出した。

これらの路線は、錯綜した国際情勢の中で国と民族の尊厳を守り、社会主義を固守するとともに、人民に豊かで文化的な生活を享受させる革命的で人民的な経済建設路線であった。

2013年、朝鮮に対する体質的な拒否感を抱いている敵対勢力は、朝鮮の平和的な衛星打ち上げを問題視して、強盗さながらに国連安全保障理事会の「制裁決議」をつくり上げ、主権国家の合法的な権利を非合法化する暴悪非道な敵対行為を働いた。

その頃朝鮮は、神聖な国の自主権と人民の安全を守り抜くための措置の一環として自衛的な第3回地下核実験を断行した。

敵対勢力は一層狂乱し、再びより強い「制裁決議」をつくり上げる一方、膨大な侵略兵力を動員して核戦争を引き起こすための合同軍事演習に熱を上げた。

2013年3月31日、金正恩総書記の指導の下に歴史的な朝鮮労働党中央委員会2013年3月総会が行われた。

総書記は会議で、経済建設と核武力建設を並進させるという新たな戦略的路線を打ち出した。

新たな並進路線は、国家核武力を一層強化して敵対勢力の増大する核の威嚇に終止符を打ち、経済建設にさらに拍車をかけて社会主義強国建設を推し進めることで、人民生活を一段と向上させる革命的で人民的な路線であった。

朝鮮人民は、新たな並進路線が打ち出された当初からそれを積極的に支持した。新たな並進路線を貫徹する事業は金正恩総書記の直接的な指導の下で積極的に推進され、5年という短期間内に国家核武力建設偉業の達成という世紀的奇跡が創造された。

金正恩総書記は、2018年4月20日の党中央委員会第7期第3回総会で並進路線の偉大な勝利を誇り高く宣言し、金日成主席と金正日国防委員長の継続革命思想を具現して社会主義経済建設に総力を集中するという新たな戦略的路線を打ち出した。

新たな戦略的路線は、経済部門を社会主義建設の基本戦線とし、経済全般を再整備・活性化することに国家の総力

を集中して、強力な社会主義経済を建設することで革命の前進を加速化するための革命的かつ科学的で人民的な路線である。

総書記は総会で**「社会主義経済建設に総力を集中し、朝鮮革命の前進をさらに加速化しよう！」**というスローガンを提示し、全党、全国、全人民がこのスローガンを高く掲げて党の新たな戦略的路線を貫徹するための革命的な総攻勢、経済建設大進軍を力強く繰り広げていくことをアピールした。

総書記は、2019年4月10日の党中央委員会第7期第4回総会で、自力更生の旗をさらに高く掲げ、国の自立的経済土台を強化し、社会主義建設を速めるという思想を示した。

そして、経済強国建設が主たる政治的課題となっている革命発展の要請に即して、自力更生の旗を高く掲げて社会主義強国を建設するのが朝鮮労働党の確固不動の政治路線であるということを再闡明し、当面の人民経済部門別課題を具体的に示した。

2019年4月12日、総書記は最高人民会議第14期第1回会議で行った施政演説**『現段階における社会主義建設と共和国政府の対内外政策について』**において、自立的民族経済建設の路線を堅持し、自力更生の革命精神を強く発揮すると

いう方針を提示した。

総書記は、社会主義強国建設で朝鮮労働党と共和国政府が掲げている戦略的方針は、人民経済を主体化、近代化、情報化、科学化することであるとし、人民経済の自立性と主体性を全面的に強化するために提起される部門別の経済政策問題と、人民経済の近代化・情報化を積極的に実現する上での課題を明示した。

総書記は、2019年12月末に開かれた党中央委員会第7期第5回総会で、当面の情勢と革命発展の要求に即して正面突破戦を展開するという革命的路線を打ち出した。

また、**「われわれの前進を妨げるあらゆる難関を正面突破戦によって切り抜けていこう！」**という闘争スローガンを提示し、経済部門を正面突破戦における基本戦線と規定した。

そして、国の経済的土台を再整備し、生産潜在力を最大限に活用して経済の発展と人民生活に必要な需要を円滑に保障することを、経済部門に提起される当面の課題として提示し、国の経済を安定的に、将来を見通して発展させるための展望目標を明確に立て、必ず達成するという戦略的方針を打ち出した。

党中央委員会第7期第5回総会で打ち出された革命的路

線には、受動的な防御ではなく、主動的な攻撃のみが直面した難局を有利に変えうるという革命の哲理が具現されている。

総書記は2021年1月に開かれた朝鮮労働党第8回大会で、国の経済戦略は整備戦略・補強戦略であると規定し、国の経済をより高い段階へ発展させるための戦略的方針を提示した。

このように、金正恩総書記は非凡な英知で当面の情勢と革命発展の要求を深く洞察し、経済建設と人民の生活向上のための段階別の闘争戦略と方針を提示することにより、社会主義強国建設を速めるための新しい旗印をもたらした。

人民の夢と理想を実現するために

金正恩総書記は人民の夢と理想を実現するため、絶え間ない献身の道程を歩み続けた。

総書記は、人民に幸福のすみかと近代的な文化・情操生活拠点を提供するために建設の大繁栄期を開くようにし、土ぼこりの立つ建設現場を足繁く訪ねた。また、人民の生活向上を最大の国事と見なし、休むことなく工場や農村、漁村を巡り歩いた。

そして、なんぴとも愛する人民に手出しができないように国家核武力完成の歴史的大業を実現し、平和守護の宝剣をもたらした。

その険しい未踏の道を踏み分ける過程には、危険極まりない発射場に出向いた時もあれば、最前線の兵士たちと共にいた時もある。

世界的な保健危機が生じた時には、人民の安寧を守るために先制的な封鎖措置を取る重大な決断を下した。

人民のために歩んだ総書記の献身の道があって、朝鮮人

民は折り重なる試練と難関に打ち勝ち、自分の夢と理想を実現している。

人民の生活条件と環境を改善するために

建設は社会主義強国、人民の楽園を築く万年大計の愛国偉業であり、国の経済的威力と文化水準を高めるための重要な事業であると定式化した金正恩総書記は、人民大衆第一主義の建築を発展させて、人民をより素晴らしい建築物の創造者、享受者にならしめることに常に重要な意義を付与した。

人民によりよい建築物で文化的な生活を享受させようとする総書記の献身と労苦によってこの10年間、朝鮮の各地には数多くの近代的な建築物が相次いで建てられた。

総書記は、平壌建築大学や白頭山建築研究院をはじめとする国の建築教育及び設計機関を次々と現地指導し、重要な建築物の設計や形成案を直接検討し、全ての建築物を立派に建てるように導いた。

未来科学者通りの形成案は590余件、黎明通りの形成案は1390余件も直接検討して完成させたことを見ても、新しい

独特な建築物を建てるためにささげた総書記の心血と労苦をうかがい知ることができる。

流線形、円形、角形などのさまざまな建築様式をなしている超高層・高層住宅や近代的な劇場、学校をはじめとする公共建築、サービス施設が調和よく配され、大規模の総合的な生活単位となっている倉田通りはわずか1年の間で建てられ、5つの部屋と台所、倉庫、廊下があり、建築の造形化・芸術化が立派に実現した44階建て、36階建ての金日成総合大学教育者住宅と、1000余世帯分の多層住宅や学校、病院、託児所、幼稚園をはじめとする公共建築と各種のサービス施設、スポーツや文化的休息を同時に楽しめる公園で形成された銀河科学者通りも短期間に建設された。

そして、国家科学院の科学者のための衛星科学者住宅地区と、帆船を模った独特な金策工業総合大学教育者住宅が建設され、わずか1年という短期間に朝鮮労働党の科学重視、人材重視思想を直観的に示す未来科学者通りが建てられた。

元々、未来科学者通りの第2段階工事が行われる時、幹部と設計者は帆船を模った金策工業総合大学教育者住宅をはじめ高く評価された建物を模倣して形成案を作成していた。そのため、建築で類似性と反復を避けることができ

ず、未来科学者通りのシンボル建築などには考えもつかなかった。

このような実態を把握した総書記は、53階建て高層アパートを未来科学者通りのシンボル建築とし、この建物が科学者たちの住宅街に建てられるのだから、科学の微視的世界である原子の電子軌道と科学の巨視的世界である宇宙の模様を共に形象化するようにした。

こうして、遠くから見ても未来科学者通りだと実感させる原子の電子軌道模様をもって螺旋状に施工されている53階建て高層アパートの屋上には、宇宙の世界を模った高さ24メートルの象徴塔が設けられた。

その後、瀟洒な低層住宅地区と壮大華麗な高層・超高層住宅地区が有機的に結び付き、それに便益サービス施設が調和をなして造形化・芸術化・グリーン化が高い水準で実現した黎明通りが建設された。黎明通りはゼロエネルギー、グリーン建築技術を取り入れて全ての公共建築と住宅が太陽光や地熱などの自然エネルギーを効果的に利用し、屋根・壁面の緑化技術などを導入して省エネ型通り、グリーン型通りとしての面貌を備えた街、先端科学技術と生態環境保護技術を結び付け樹林化・公園化が実現した街である。

そして三池淵市が、民族性と近代性、北部高山地帯の特性が立派に結び付き、全ての建築物の実用性と多様性、造形芸術化が完璧に実現した社会主義の文明の縮図、社会主義の山間文化都市のモデルとして様変わりした。

2021年1月に開催された朝鮮労働党第8回大会では、5カ年計画期間に平壌市の5万世帯住宅の建設に力を集中して、毎年1万世帯分の住宅を建設するための年次計画を立て、その実行のための建設作戦と指導を綿密に行って、首都の住民の住宅問題を基本的に解決するという課題が提示された。

そして、同じ期間に屈指の鉱物生産基地であり、労働者階級の大部隊が暮らしている検徳地区に2万5000世帯分の住宅を建てて、新しい鉱山都市を立ち上げるという課題も提示された。

2021年末、平壌市の松新・松花地区に1万世帯の住宅が立ち並ぶ新しい通りが建設され、普通江畔には特色のある段々式住宅区の建設が進められた。また、検徳地区に数千世帯の住宅が建設されて、新しい鉱山都市の面貌を整えている。

今も朝鮮では住宅の建設が大々的に行われている。

金正恩総書記は人民の住宅ばかりでなく、記念碑的建築物や文化・情操生活拠点をはじめとする記念碑的建築物の

建設にも深い関心を払った。

総書記の構想によって、原子の模様を模った独特な形式の科学技術殿堂が21世紀のチュチェ建築のモデルとして立派に建てられ、円筒形の建物をバランスよく配置してヒマワリを模った元山育児院と愛育院が建てられた。

そして、昔から同じ屋根の下で暮らすのを好む朝鮮人の生活風習を反映させ、3層石塔形式の門柱と朝鮮式垣根をめぐらして民族的色彩を生かした平壌養老院と、遠くから見ると、平和を象徴する2羽の鳩が翼を広げて向かい合っているかのように見え、建物の正面や裏面のガラス壁と玄関ホールの底に白虎を描いて朝鮮の姿を集約的に見せる平壌国際空港のターミナルビルも立派に建設された。

また、素晴らしい延豊科学者休養所が新築され、綾羅島とスク島が人民のための遊園地、科学の拠点に一新された。紋繍遊泳場や美林乗馬クラブ、統一通り運動センターなどの人民の憩いの場も築かれた。

人民の要求と便宜を最優先、絶対視するという金正恩総書記の気高い人民観によって、波状の屋根を葺いた特色のある柳京院と人民屋外スケートリンク、人民の健康増進に寄与する玉流児童病院、柳京歯科病院、柳京眼科総合病院、松涛園国際少年団野営所、金正淑平壌紡織工場と金正淑平壌製糸工場の労働者寮なども建設された。

総書記は、人民が暮らす部屋の床を手でさすってみたり、人民が使う椅子に座ってその座り心地を確かめたり、自ら手帳に絵を描きながら施工に万全を期するようにと教えた。

国務に多忙を極めていた2013年10月のある日の深夜、金正恩総書記は美林乗馬クラブの建設現場を訪れた。

いろいろな施設物を見て歩いた総書記は、人民の要求と好みに合わないものを見てもどかしく思い、竣工式を延ばすことがあってもつくり直さなければならないとしてその改造方法についていちいち教えた後、重い心で建設現場を離れた。

それから3時間後、人民により立派な大衆乗馬サービス施設を与えようと心を砕いていた総書記は、深夜にもかかわらず再び建設現場に出向いた。

先ほど、ここのサービス施設を見て施工をおおざっぱにしたことを厳しく批判したが、このままでは眠れなくてまた来た、零時をはるかに回っているが、建設対象を見て回りながら欠点を見つけ出し、必要な対策を講じるつもりだ、と言った総書記は、工事現場の各所を具体的に視察し、欠点の修正方向と必要な対策を立ててからそこを後に

した。その時はもう夜が明け始める午前4時半頃だった。

人民の笑い声が年中絶えない紋繍遊泳場にも、丸2年間、寒い日や暑い日、雨の日や風の日、深夜や夜明けにもかかわらず、113件の形成案をいちいち検討し、何回も工事現場に足を運んだ総書記の献身の足跡が記されている。

2013年9月22日の日曜日、何の予告もなしに紋繍遊泳場の建設現場に出向いて工事の細部に至るまで指導した総書記は、その次の日曜日である9月29日の明け方に再び工事現場に足を向けた。

前夜、紋繍遊泳場の建設にかかわる問題についていろいろ思索を凝らして夜を明かした総書記が再び建設現場へ足を運んだことを知っている人はあまりいなかった。

2013年10月13日の明け方、紋繍遊泳場の落成報告を受け、昼食も取らずに現地に赴いた総書記は、竣工式を控えて修正すべき問題に対し具体的な助言を与え、自ら遊泳場の安全性のために午後にも現地へ出向いてテスト運営まで確認した。

早朝から日が暮れるまで科学者と技術者のために奔走した話は、常に人民のことを考える総書記の心血と労苦がいかに熱いものかを物語っている。

恩情科学地区に建設する科学者住宅の問題について夜更けまで考え続けていた総書記は、2014年1月14日の午前5時頃、国家科学院の責任幹部に電話をかけて必要な世帯数を尋ね、どうしても自分が直接出てみなければならないと言った。

早朝に国家科学院に到着して昼過ぎまで国の科学技術発展のための貴重な教えを与えた総書記は、昼食も取らずにその足で科学者休養所の建設敷地を最終的に確定するために延豊湖へ向かった。

現地に到着した総書記は、自ら地図を広げて先頭に立って歩きながら地形をいちいち確かめた。

前年にも2度にわたり船に乗って湖の岸を見て回りながら休養所の適地を確かめた総書記は、この日冷たい雪が足首ほどに積もっている建設予定地を踏んで歩き、科学者たちの休養所の敷地としては実にうってつけの場所だ、夏に来てみた時は空気が澄み、樹木が青々と茂り、景色が素晴らしかった、今日こうして見ると、冬の風景もそれに劣らず素晴らしいと大いに満足した。

延豊科学者休養所の建設工事が始まって間もない2014年5月の末、総書記は建設現場を訪れた。

総書記は、ベッドルーム用建物の外部形成案と骨組みだけが出来上がっている建物を何度も代わる代わる見比べな

がら、このベッドルーム用建物の形成案は山地の建物らしい味わいに欠けている、屋根に傾斜を持たせた外部形成案を作成することでベッドルーム用建物の陸屋根形式と傾斜屋根形式を交互に配するとよかろうとして、その場で設計を直す方向を教えた。

数カ月後、総書記は再び休養所建設現場を訪れた。

完成段階にある休養所を満足げに見渡して、屋根の色は建物の性格に見合ったものを選び、工場で加熱塗装したばかりの屋根材を葺けば脱色を防ぎ、長持ちすると言った総書記は、建物の中へ入り、各部屋の隅々まで目を凝らして見た。

トイレや浴室の施工状況にもつぶさに注意を向けて、些細な欠陥もあってはならないとしてそれらをいちいち指摘した総書記は、屋内遊泳場、露天遊泳場、電子図書室を順に見て歩き、そのどれもよくできていると満足した。

続けて休養閣第5号棟の広間とベッドルーム、洗面室などを満足して見た総書記は、バルコニーに立って総合サービス所の建物や休養閣などを眺め、建築形式が大変立派だとたたえ、延豊科学者休養所は科学者と技術者のための金の座布団だと言った。

2015年2月26日、金正恩総書記は、冷たい川風が吹き、土ぼこりの舞う科学技術殿堂の建設現場を視察した。

前年6月、大同江上の中州スク島を見て回り、ここに科学技術殿堂を建てようと提唱したのである。

総書記は、科学技術殿堂は科学者や技術者だけでなく、全人民が心行くまで学習できる学びの殿堂、先進科学技術の普及センターにならなければならない、言うならば、車がひっきりなしにガソリンスタンドへやって来てガソリンの給油を受けて帰るように、大勢の人たちが科学技術殿堂にやって来て、間断なく最新科学技術を学んで帰るようにすべきだ、科学技術殿堂は科学技術情報を次々に流通させる普及拠点になるべきで、水が淀んでいるような情報のたまり場になってはならない、と指摘した。

2015年10月27日、総書記は完成なった科学技術殿堂に赴いた。

鳥瞰図の前で、建物の外観からして科学の世界を象徴する巨大な原子構造の模様をもってユニークな形に仕上げられ、太陽光と地熱などの自然エネルギーによる照明や冷暖房を行う省エネ建築、グリーン建築として立派に建てられたという説明を聞いた総書記は、科学技術殿堂の外観を眺めて、科学技術殿堂は大変な出来栄えだ、実に雄壮だ、科学技術殿堂が建設されたお陰で、スク島が見違えるほどに様変わりした、スク島の以前の姿はもはやどこにも見られ

ない、スク（ヨモギ）が生い茂っているとしてスク島と呼ばれていた中州が科学の島、学びの島になったとして、大きな満足を表した。

そして、科学技術殿堂の機能上の基本は電子図書館としての機能だとして、科学技術殿堂はあくまでも展示品を見物する展示場ではなく、新しい科学技術を習得する学び舎になるようにしなければならないと強調した。

2016年1月1日、総書記は全人民学習の大殿堂として立派に建設された科学技術殿堂の落成式に臨席して落成テープを切った。

金正恩総書記は、人民により素晴らしい文化生活条件を保障するために献身の道を歩み続けた。

総書記は、国の豊富な温泉を種々さまざまに開発し利用することについて深く思いを致し、諸温泉に関する資料を深く検討した末、陽徳郡の温泉地区に療養もすればのんびりと観光もしうる総合的で近代的な休養地のモデルを造成する構想を抱いて、深夜、現地指導の途についた。

その日は土用の暑さがまだ残っている2018年8月の中頃であった。

郡内の温泉地区にある各療養所の運営実態と温泉の利用状況について詳しい説明を受けた総書記は、現在全般的

に温泉場の内部施設が古びてそれらの環境が思わしくないが、今度モデルとして当地の温泉場を立派に整備し、引き続き全国各地の温泉場を全て一新すべきだと言った。

そして、丘や山、くねくねした峠道を登り降りして陽徳郡温井里一帯の渓谷の温泉場を見て歩き、それぞれの温泉の湧出量や周辺の環境をじかに確かめた。

また、にわか雨に濡れながらも、80℃以上の熱湯が湯気を立てて勢いよく湧き出る湧出口に手を当ててみては、何か宝石でも発見したかのように顔をほころばせて喜んだ。

総書記は、山が高く、樹木が生い茂り、空気が澄み、風致の秀麗な陽徳郡は温泉休養所や療養所を設けるのに適しているとして、総合旅館の敷地を選びもし、この地区に総合旅館を大きく建て、周辺には自炊用宿所を見栄えよく配し、各種の近代的な総合サービス施設も建設するとよい、また野外で温泉浴もできるよう、屋内浴場だけでなく、露天浴場も設け、個人浴室、大衆浴場、治療浴場など、各種の温泉浴サービスを提供しうるようにすることだと言った。

総書記は、温泉地区に治療を目的とする総合的な療養所も建設し、この地区にある住宅を2、3階建て及び平屋造りの有機的結合によって、山間地帯の温泉休養地の特色を生

かして立派に建設するようにした。

人民に与える温泉文化休養地建設のために総書記が指導した形成案はおよそ2000余件に達する。そして、建設の全期間、数回にわたって建設現場に出向いて指導した。2019年だけでも4月と8月、10月と11月にかけて重ねて訪れた。わずか4カ月ぶりに訪れ、その50余日後にまた訪れ、現地視察してから20余日ぶりにまた訪れたこともあった。

総書記の献身の月日があって、陽徳地区には温泉浴やスキーもし、乗馬もできる特色のある文化的休養地が造成され、年中人民の笑い声が高く響き渡っている。

人民の生活向上を第一の国事として

金正恩総書記は、人民の生活向上をあまたの国事の中の第一国事とし、人民の生活向上のために工場と企業、協同農場、水産事業所を訪ねて歩み続けた。

特に人民の食糧問題、食の問題を解決するために不眠不休の労苦を重ねた。

総書記から見れば見るほど気に入る農場だと高く評価された1116号農場は、人民の食生活の向上のための総書記の心血と労苦がいかに大きいものかを世に伝える歴史の証人である。

すでに農場を訪ねて種子の改良と育種において全国のモデル単位となるよう課題を与えた総書記は、農場が上げた成果について報告を受けるたびに誰よりも喜び、2015年には2回もこの農場を訪ねた。

同年5月31日、農場の種子研究所、試験工場、農作物試験及び栽培圃場を視察した総書記は、育種研究事業と農場の管理・運営状況をつぶさに確かめ、農場の幹部、科学者、研究士、従業員が育種の科学化を実現する上で多くの成果を収めたことに大きな満足の意を表した。

それから数カ月後の8月のある日、真夏の猛暑もいとわず、再び農場を訪ねた総書記は、長い時間をかけて田畑を見て回り、優良品種の作物をより多く育種するよう力と勇気を与えた。

この日、農業をきちんと営んで人民の食糧問題を円滑に解決するためには、国の実情に即して種子革命を行わなければならない、少ない肥料で安全な多収穫が得られる品種、日照りや暴風雨による被害、冷害や高温による被害、病虫害によく耐える優良品種をより多く育種しなければならないと強調し、この農場により高い目標を提示した。

2017年9月、5度目にこの農場を訪ねた総書記は、不順な気象・気候条件の下でも豊年満作を収めた農場の田畑を

眺めながら、黄金の波打つ田野に立ってみると、科学農業素晴らしい、種子革命素晴らしいという歌のくだりがおのずと出てくる、本当に満足に思う、自信が湧いた、私にはあの稲やトウモロコシの海がそよぐ音が、社会主義勝利の凱歌、人民の幸せに満ちた笑い声のように聞こえると言った。

金正恩総書記は、野菜やキノコ、果物の生産を増やして人民の食卓をさらに豊かにするために、全国各地の野菜温室やキノコ生産拠点、果物生産拠点もたゆみなく訪ね歩いた。

2014年6月9日、平壌市寺洞区域の将泉野菜専門協同農場を訪ねて室温が43℃にもなる野菜温室を見て回っていた総書記は、暑いから早く外に出てほしいと懇願する農場の幹部に、大丈夫だ、首都の市民に四季新鮮な野菜を供給することができるなら、ここよりひどい所でもみな行ってみたいと言い、蒸し暑い野菜温室の中を長い間歩きながら、温室野菜の生産と関連してこまごまと教えた。

総書記は、北部海洋性気候のため野菜がよくできない北部地帯の野菜問題を解決するために心血を注いだ。

2018年7月、咸鏡北道鏡城郡仲坪里に出向いて大規模野菜温室農場の建設構想を示し、自ら敷地も定め、その翌月には真夏の猛暑もおして再び当地を訪ねて温室農場の建設準備を指導した。

総書記の崇高な志を体して奮起した人民軍軍人は、果敢な突撃戦を繰り広げて温室や育苗場、数百世帯の住宅をわずか1年余りの間に完工する奇跡を生み出した。

仲坪野菜温室農場と育苗場の操業式が2019年12月3日に盛大に行われた。

この日、完成した仲坪野菜温室農場を視察した総書記は、地理的には遠近があっても、自分の心の中には遠い人民と近い人民があり得ない、野菜温室農場が咸鏡北道人民の食生活に役立つならば、それ以上に嬉しいことはないと述べた。

人民の食卓にキノコをたくさん上がらせるために労苦を重ねた総書記は、2013年10月、じめじめと降る雨に濡れながら新しく建設された国家科学院中央キノコ研究所(当時)を訪ねて、わが国をキノコの国にする輝かしい展望を示した。2015年1月、肌を刺すような寒さの中でも新築なった平壌市キノコ工場(当時)を訪ねた総書記は、今日は本当に気分がよい、新年早々人民のために建てられた素晴らしい創造物を見て、なんと気持ちがよいか分からない、1年365日が毎日こんな日で続くならそれこそ申し分なかろうと言っ

て、終始笑顔を絶やさなかった。

人民に果物をより多く供給する願いを抱いた総書記は、果樹部門を発展させる道を示し、全国の大規模果樹農場を絶え間なく現地指導した。

2016年9月17日、高山果樹総合農場を訪ねた総書記は、たわわに実ったリンゴを手にとって、リンゴが本当に大きくて芳しい、このリンゴを食べながら喜ぶわが子供たちと人民の姿が目に浮かぶと言った。

2017年9月20日、黄海南道クァイル郡を訪ねた際も、数千ヘクタールの果樹畑を全部見て回りたい気持ちだ、見れば見るほど喜びで胸が躍る、クァイル郡に広がった果物大豊作のニュースを聞いて喜ぶ人民の姿を思い描くと疲れがすっかり取れる、と言ってほがらかに笑った。

金正恩総書記は、人民によりたくさんの食肉や魚類を行き渡らせるために、国の畜産拠点や水産物生産及び加工拠点にも労苦の足跡を残した。

2016年8月17日、真夏のむし暑さもいとわず大同江果樹総合農場を視察した総書記は、その足で大同江養豚工場を訪ねた。

総書記は、近代的な工場とはいえ、まだ悪い臭いが漂う肥育舎に入りまるまると肥えた豚を見て喜び、有機質複合肥料職場にも立ち寄って生産工程を具体的に見て回った。

2014年1月のある日、総書記は吹雪が荒れ狂う険しい道を踏み分けて、新しく建設された水産物冷凍施設を訪ねた。

総書記は、私がここに来たのは、全国の育児院と愛育院、初等及び中等学院、養老院への魚類供給の可能性を討議するためだ、全ての院児が親のいない悲しみを知らず、何羨むことなく革命の継承者、革命の根幹に育つようにするのはわが党の確固たる決心であり意志だとし、彼らに魚を毎日300グラムずつ食べさせるには、年間どのくらい必要なのかを、冬の寒風が吹く外に立ったまま、自ら手帳に計算までしてみた。

それから1カ月半くらい経った2月のある日、ある水産事業所の建設現場を訪ねた総書記は、工事場を眺めるだけでも、近代的な水産事業所が目の前に見え、魚の山が待っているようだと豪快に笑った。そして、愛する人民や子供たちに魚を食べさせるためにわれわれが行っている仕事がどんなにやりがいのあるものかを考えるだけでも胸がいっぱいになると言った。

金正恩総書記の献身の足跡は、全国各地の養魚・養殖拠点にも残されている。

ある養魚場を訪れた総書記は、池で群がり泳ぐ腕ほどのニジマスを見て、水半分、魚半分だとして喜び、また他の養魚場を見て歩いては、コウライイトやコウライケツギョなど肉味が特別によい魚も飼って人民の食卓に出すべきだと言った。

今日、朝鮮に繰り広げられた黄金海の歴史は、人民に魚をより多く供給すべく、総書記が何回も訪れた朝鮮人民軍8月25日水産事業所にも宿っている。

総書記がこの水産事業所を初めて訪れたのは、じめじめと雨が降っていた2013年5月27日のことであった。

その日、水産事業所の漁獲課題を定めた総書記は、これは最高司令官の命令ではなく頼みだとし、新しく建造した漁船を、豊饒な秋のように海でも大漁を迎えようという意味で「丹楓」号と名づけた。そして、この名には、魚をたくさん捕って軍人たちに切らさず供給しようという自身の期待と願いがこもっていると切々と語った。

国事に忙殺されている中で、この水産事業所の幹部と従業員たちが「丹楓」号に乗って漁獲課題を超過遂行したという手紙を受けた総書記は、自身の喜びがこもった親筆の返書を送り、直接魚の大豊を見たいという心をどうすることもできず、12月15日には再びこの水産事業所を訪れた。

塩魚庫や冷凍貯蔵庫にぎっしり積まれている魚を見て大きく満足した総書記は、人民が最高司令官を信頼して大事なわが子を自身に預けているが、朝鮮人民軍8月25日水産事業所が全ての軍人に毎日魚を規定量通り給食できるようにたくさんの魚を捕ったのは最高司令官を心から助けたことになる、本当にありがたく思う、と語った。

総書記はこの時期、朝鮮人民軍1月8日水産事業所や新浦遠洋水産連合企業所をはじめとする各地の水産物生産拠点を絶え間なく訪れた。

人民の生活の向上に尽くした金正恩総書記の心血と労苦は、食品工業部門の各工場にも秘められている。

独特な風味を持つ塩辛は、古くから朝鮮人が好んで食べた栄養価の高い副食物の一つである。

金正恩総書記は、塩辛を工業的方法で生産する近代的な加工工場の建設を提唱し、2015年3月には現地に出向いて工場の建設を具体的に指導した。

そうして、短い期間に各種の塩辛や魚醤油を大量生産できる食品加工拠点が建てられた。

2018年8月7日、気象観測以来初の猛暑もいとわず、再びこの工場を訪れた総書記は、貯蔵庫の中にきちんと積んである塩辛加工品を明るい笑顔で眺め、人民の食生活の向上

に少しでも役立つことができたと思うと、積もった疲れがすっかり取れそうだと言った。

人民に尽くす総書記の不眠不休の献身により、数年間で平壌穀物加工工場、平壌基礎食品工場、金杯スポーツマン総合食品工場、平壌大慶海苔加工工場、平壌トウモロコシ加工工場、柳京キムチ工場、葛麻食品工場をはじめとする数多くの食品工場が、主体化・近代化・科学化が高い水準で実現した食品工場として新設、または改造された。

また、竜岳山ミネラルウォーター工場や江西薬水工場をはじめとして、人々の健康と治療によいミネラルウォーターや薬水を生産する各地の工場も近代的に改造された。

金正恩総書記は、全国の人民により上質の生活必需品を与えるために労苦を尽くしている。

2016年6月20日、金正淑平壌製糸工場を訪れた総書記は、人民の物質生活をさらに潤いのあるものにするためさまざまな良質のふとんを生産する近代的な生産工程を整えるようにと指示し、そのための具体的な措置を講じた。2017年1月7日には、再び工場に出かけて新たに設けられたふとん生産工程を見て歩いた。

冬ふとん、夏ふとん、春秋ふとん、結婚式用ふとん、シーツなどさまざまな寝具類がつくり出されていることに満足の意を表した総書記は、ふとんの色合いと紋様が人民の情緒や美的感覚に合いながらも高尚で美しいばかりでなく、軽くてやわらかいとし、商店に出すと人民の人気を集め、需要が高まるだろうとたたえた。

総書記は、履物の質を高めることにも深い関心を払った。

元山製靴工場は、総書記が人民に見栄えのする良質の靴を与えようと、蒸し暑い真夏にも吹雪の吹きすさぶ真冬にも訪れ、時には1年に2回も訪れて、革靴をはじめとする履物の生産を大幅に増やすよう精力的に導いた工場である。

2014年7月25日、元山製靴工場を初めて訪れた総書記は、季節や用途にそって履き心地がよく見栄えもし、年齢別の特性にも合う軽くて丈夫ないろいろの靴をより多く生産すべきだとし、工場近代化の具体的な方法を示した。

2015年1月30日、再びこの工場を訪れた総書記は、今後、元山製靴工場では履物の生産を正常化し、製品の質を高めなければならない、履物は人々の生活でなくてはならない必需品である、工場では靴の質をさらに高めて、全ての生産品を名商品、名製品にすべきだと語った。

このように工場の労働者たちに自信と勇気を与えた総書記は、2015年11月、3度目に工場を現地で指導した際、今後しばしばやって来て履物の生産状況を確かめることにする

と、工場の幹部や従業員と約束した。

総書記はこの約束を守って2016年12月8日、再び元山製靴工場を訪れた。

総書記は、この工場は来るたびに気分がよくなるとし、元山製靴工場は私の工場である、それで私はいつでも前触れなしにこの工場にやって来る、この工場のことは私が責任を持つと言った。

2018年12月初め、5度目にこの工場を訪れた総書記は、予告もせずに不意にやって来たが、履物の豊年を見ることができた、工場が生産の正常化に力を注いで上質の履物が滝のように流れ出てくる様子を見ると本当に喜ばしく、気持ちがいいと顔色を輝かせて語った。

人民によりよい履物を与えるための総書記の足跡は、平城合成皮革工場にも残されている。

2016年7月11日、この工場は国の宝の工場だという信頼を寄せた総書記は、工場でいろいろな色の良質の合成皮革を生産しているが、履物生産の多種化・多様化・多色化を実現するためにはこのような合成皮革を大量生産する必要がある、原料・資材の国産化の比重を高め、合成皮革製品の品質を高めるためにさらに努力すべきだと強調した。

人民の履物問題を重視していた総書記は、2015年1月と2017年10月、柳原製靴工場に出かけて工場を近代的に改造する課題を与え、将来を見通して生産を増やす方途を示した。

人民の生活と関連した仕事は、どれ一つとして後回しにすることなく最優先・絶対視する総書記は、2012年7月2日、平壌靴下工場を訪れて靴下の生産を細やかに指導した。

この日、総書記は、男子用靴下を左右に引っ張ってみながら、人民が使う靴下の品質に細かく気を使った。

靴下の生産状況を直接確かめもし、生産を正常化するよう助言も与え、商標のデザインにも細心な関心を払って完成させた総書記は、2014年8月6日、再び平壌靴下工場を訪れた。

この日、総書記は幹部たちに、人民から好評される、良質で見栄えのするさまざまな靴下を作らなければならないと諭し、品がよくさっぱりしたさまざまな靴下を作るために頭を働かせ、商標のデザインも不断に改善し、包装もよくしなければならないと、一つ一つねんごろに教えた。

児童用靴下には子供たちが好む動物の模様を入れるのがよいとし、その図案まで自ら考え出した総書記の細心の配慮があって、子供たちの童心を反映して朝鮮のアニメ『かしこいタヌキ』に出てくる子タヌキや子ネコ、子グマの可愛らしい3親友の模様が靴下にきれいに入れられるようになった。

人民の生活向上のために心を砕く総書記の滅私奉仕の足跡は、各地の化粧品工場や平壌歯科衛生用品工場にも印されている。

総書記は平壌化粧品工場に2回も足を運び、化粧品の品目を増やし、その質をより高い水準に引き上げるように導いた。

2015年2月4日、平壌化粧品工場を訪ねた総書記は、自分が今日ここに来たのは、平壌化粧品工場の化粧品を世界的水準のものにする契機を作るためである、そのためには、世界的に有名な化粧品を全部購入して分析し、それをわが国の化粧品と比較してみる必要がある、われわれは井戸の中の蛙になってはならないとし、工場の化粧品生産を一日も早く世界的水準に引き上げるための方向と方途を示した。

その日、自身が力添えするから工場を世界に誇れる近代的な工場に一新しようとした総書記は、改築形成案についての細やかな助言を行い、強力な建設陣と科学技術陣、資材の保障対策も講じた。その後、工場の幹部や従業員の眼識を広めるため、世界的に有名な化粧品もたくさん送った。

2017年10月28日、近代化された平壌化粧品工場を再び訪ねた総書記は、平壌化粧品工場で生産する化粧品は品目が多く品質も優れており、容器の形はもちろん包装も見栄えがするとしてすこぶる満足し、より美しくなりたがる女性の願いをかなえてやることができた、近代化・科学化・工業化された工場で量産される世界的水準の化粧品を手にして喜ぶわが国の女性や人民を思い浮かべると本当にうれしいと語った。

新義州化粧品工場を訪ねた時には、既存の成果に満足することなく、より高い目標を目指して引き続き飛躍すべきである、「ポムヒャンギ(春の香り)」ブランドの化粧品に対する人気が高く、需要が増えるからといって絶対に自己満足してはならない、「ウンハス(銀河水)」ブランドの化粧品をはじめわが国の化粧品の品質を世界的水準に引き上げながらその品目を増やすべきだとねんごろに教えた。

高級石鹸を生産する工場の敷地を、名勝と知られている竜岳山の麓に定めた総書記は、2016年6月3日、工場建設を現地で指導しながら工場の名称を**「竜岳山石鹸工場」**とし、人民の生活に実際に役立つ立派な工場に建設するよう課題を与えた。

同年10月28日、完工した竜岳山石鹸工場を訪ねた総書記は、工場の生産を活性化し、人民の文化生活に必須のヘアシャンプーなどの化粧品の品質を先進国の水準に引き上げようというのがわが党の意図であるとし、工場で生産された良質の液体石鹸を手にして喜ぶ人民のことを考えると積

もった疲れがすっかり取れそうだと言った。

金正恩総書記は、人民が日常生活でよく使う歯科衛生用品の生産にも深い関心を払った。

2017年6月19日、新設の平壌歯科衛生用品工場を訪ねた総書記は、古くから丈夫な歯は五福中の一つとされてきた、近代的な歯科衛生用品工場が建設されて、人民に良質の各種歯科衛生用品を供給しようとする願いがかなえられた、人民の無病長寿に資する有意義な仕事をもう一つやり遂げたと思うと、本当に気分がよいと喜びに満ちて言った。

総書記は、チャックやメラミン樹脂製品を生産する万景台革命史跡地記念品工場、各種の食品包装材、プラスチックの容器や使い捨て弁当、コップ、用途別のプラスチックパイプなどを生産する楽浪戦傷栄誉軍人樹脂日用品工場にも人民のための献身の足跡を印した。

金正恩総書記は、人民に利用される運輸手段にも深い関心を払い、新型のトロリーバスや地下鉄電車を生産するための対策も講じた。

2018年2月4日の深夜、人民が利用するものなので自分が直接試してみないと安心することができないと言って、新型のトロリーバス試運転場に出向いた総書記は、同行した幹部たちに、外形を見ただけではその性能がよく分からない、みなトロリーバスに乗って、人民の立場に立って不具合がないかを注意深く調べてみようとし、人々がぐっすり寝入った夜更けの市内の街を走り続けた。

金正恩総書記が労苦をいとわず人民の生活向上のための拠点を絶え間なく訪ねるのは、人民に仕えることを畢生の本分としているからである。

平和守護の宝剣

この10年間、朝鮮に対する敵対勢力の政治的・軍事的圧迫と制裁・恐喝は一層激しくなった。

それは朝鮮をして、国の富強・繁栄と人民の幸せのために国防力をさらに強化せざるを得なくした。

祖国と人民への絶対的な信頼と愛を抱いた金正恩総書記は、国家核武力完成のために自分の全てを尽くした。

朝鮮労働党中央委員会2013年3月総会で経済建設と核武力建設を並進させるという新たな戦略的路線を提示した総書記は、自衛的核抑止力を強化するための活動を精力的に導いた。

敵対勢力は「非現実的」だの、「成功できない」だの、「経済と民生を疲弊窮乏させるもの」だのと悪らつに中傷し、前代未聞の制裁と圧迫、軍事的脅迫をもって並進路線

の貫徹を妨害しようとした。

朝鮮が敵対勢力の核脅威と恐喝に対処して自衛的核抑止力を強化する措置を取ると、いつも敵対勢力はいわゆる「制裁決議」なるものを次々とつくり出して他国との正常な経済交流や金融取引を妨害・封鎖し、さらには兵器開発とは無関係な一般食品やスポーツ用品、子供用玩具まで制裁項目に入れる稚拙な行為もためらわなかった。

一部の国々も、敵対勢力の反共和国対決騒ぎに便乗して朝鮮の並進路線をこきおろし、経済建設と核武力建設の並進を各方面から妨げた。

しかし、朝鮮人民はいささかも動揺することなく、自分が選んだ道に沿って力強く前進した。

世界で最初に水素爆弾を保有した最大の核保有国との力の均衡を保ち、国の恒久安全を保証するためにも、国と民族の自主権と尊厳を守るためにも、朝鮮は水素爆弾を保有しなければならなかった。

朝鮮の国防科学者の優れた知恵と英知、自力更生・刻苦奮闘の努力によって、朝鮮はついに水爆実験段階にまで至った。

2015年12月15日、総書記は、初の水素爆弾の壮快な爆音をもって、歴史的な朝鮮労働党第7回大会が開かれる2016年の荘厳な序幕を開くという戦闘的命令を下達した。

国防部門の核科学者や技術者、労働者は、昼夜兼行の緊張した戦闘を繰り広げて20日足らずの短期間に水爆実験の準備を完了した。

水爆実験の準備が完了したという報告を受けた総書記は、2016年1月3日、水爆実験を断行するという最終命令書にサインした。

2016年1月6日、自らの知恵と技術、自力に依拠した朝鮮の初の水爆実験が完全に成功する特筆大書すべき出来事が起きた。

金正恩総書記は、敵対勢力に容赦なき鉄槌を下す核の兵器化に一層拍車をかけるようにした。

総書記は2016年3月、さまざまな戦術および戦略弾道ミサイル弾頭部に装着する、新しい方式で設計・製作され小型化された強力な核弾頭を直接見ながら核の兵器化を指導した。

総書記は、国家核武力完成を目指す段階別目標を明示し、特に朝鮮労働党第7回大会が提示した国家核武力完成の完結段階の目標を達成するための活動を一つ一つ着実に進めるようにした。

朝鮮の科学者や技術者は、祖国と人民に対する限りない忠誠心と自力自強の精神力を発揮し、水素爆弾の技術的性能をさらに高めるためにたゆまぬ努力を傾けた。

2017年9月3日、朝鮮労働党中央委員会政治局常務委員会を招集した総書記は、国家核武力完成の完結段階の目標を達成する事業の一環として、大陸間弾道ミサイル装着用水爆の実験を断行するという命令書にサインした。

同日12時、朝鮮の科学者たちは大陸間弾道ミサイル装着用水爆の実験を成功させることで、5000年の民族史に特記すべきチュチェ式の超強力熱核兵器の誕生をもたらした。

総書記は、強力な新しい核爆弾をつくり出すとともに、敵がどこにあろうと意のままに打撃できる運搬手段、戦略兵器の開発を指導して、朝鮮を大陸間弾道ミサイル保有国に浮上させた。

総書記は、弾道ミサイルの大気圏再突入技術をわが国の力と技術によって開発するようにした。

総書記の意を体した朝鮮の科学者や技術者たちは、敵対勢力の悪らつな制裁と妨害策動の中でも、ついに自分の力、自分の技術、自分の燃料に基づいた弾道ミサイル弾頭部の大気圏再突入環境シミュレーションを行って成功することができた。

2016年3月、総書記の指導の下に成功裏に行われた弾道ミサイル弾頭部の大気圏再突入環境シミュレーションによって、朝鮮の弾道ミサイル技術は大きな前進を遂げた。

総書記は、大出力エンジンもまったく新しい方式で開発・完成するよう精力的に導いた。

2017年3月18日は、朝鮮の歴史において軍事力強化の新たな里程標を立てた歴史的な日として、朝鮮のミサイル工業を新たな発展段階に押し上げた意義深い日として記録されている。

総書記の信頼と期待がこもった研究・開発課題を受けた科学者・技術者たちは、なんとしても新型の大出力エンジンをつくり出す決意を固めて取り組んだ。

2016年の大出力固体ミサイルエンジンの地上噴出および段階分離試験と新型の大陸間弾道ミサイル大出力エンジンの地上噴出試験など、幾段階の研究と試験を行う過程に、科学者・技術者たちは朝鮮のミサイル工業を見本模倣型から開発創造型に確実に転換させていった。

総書記の指導の下に国防科学者・技術者たちはついに、従来のエンジンより性能の高い大出力エンジンを1回の試験で成功させて、国防工業建設史に今一つの奇跡を記録した。

大出力エンジン試験の成功は、民族の特大慶事、軍事力強化の大路を開いた驚異的な出来事であった。朝鮮人民の脳裏に、世界の人々の記憶にはっきり焼き付けられた、功労のある科学者を抱き上げ、背負うその日の総書記の姿が

伝える歴史的意義は、実に大なるものである。

その日の大成功によって、朝鮮のミサイル工業は見本模倣型から開発創造型に確実に転換され、主体的な核武力建設偉業を完成し、世界的なミサイル保有国に浮上できる強固な科学技術的土台が築かれた。

総書記は、このような成果を踏まえて、敵対勢力のあらゆる挑戦と妨害策動をはねのけ、数回の大陸間弾道ミサイル試射を安全かつ透明に行うようにして、朝鮮を世界が公認する大陸間弾道ミサイル保有国に浮上させた。

総書記は2017年の新年の辞で、朝鮮労働党と政府を代表して大陸間弾道ミサイル試射の準備が最終段階で推進されていることを公表し、その成功のために一年中心魂を傾けた。

深夜や夜明けをいとわず、土ぼこりの立つ危険極まりない試射現場に頻繁に出向き、新型の先端ミサイル開発の草分けの道を一歩一歩切り開いていく総書記の献身と労苦に限りなく励まされた科学者・技術者たちは、精神力と技術能力を最大限に噴出させて、大型重量核弾頭の装着が可能な大陸間弾道ミサイルを短期間に新しく設計・製作した。

彼らは、誰かの支援や技術移転による模倣ではなく、徹頭徹尾自らの科学技術に基づいた開発創造の道で大陸間弾道ミサイル「火星—14」型と「火星—15」型を誕生させた。

チュチェ朝鮮の大陸間弾道ミサイル「火星—14」型が巨大な火炎を噴き出しながら大地を蹴って飛び立ち、成功と歓喜の飛行雲を宇宙に引いた7月4日は、国際政治の焦点と関心を朝鮮に集中させた驚異的な日として記録された。

従前、ワン・セットのミサイル兵器システムを完成するには普通15～20年がかかったが、朝鮮の科学者たちは1カ月半という短期間に速度と質を共に保障しながら1回の試験で成功させた。

朝鮮の科学者たちは、大陸間弾道ミサイル「火星—14」型を開発すべく、数十回にわたる基礎および部分試験を行った。

この複雑な各段階の試験場に一度も欠かさず赴いた総書記は、試験が順調に進んでいない時には、長時間科学者たちと膝を交えて原因を探したり、その解決方途を教えて自信と勇気を与えるなど精力的に指導した。

試験場から帰った後も関係幹部に電話をかけたり、執務室に呼び寄せたりして、ミサイル開発に関連した指示を与えた。ある夜などは、夜明けまで科学者たちと共に思索を続け、研究を重ねたこともある。

危険極まりない発射現場に赴き、燃料の注入から打ち上げまでの全過程を具体的に指導した総書記の偉大な献身によって、朝鮮の大陸間弾道ミサイルは大地を蹴って飛び立

ち、万里の蒼空に美しく誇り高い勝利の飛行雲を引くことができたのである。

大陸間弾道ミサイル「火星—14」型の発射に成功した7月4日、金正恩総書記は次のように宣言した。

……今日は歴史的な日である。わが共和国が大陸間弾道ミサイルを手にした日である。……今やわが国は大陸間弾道ミサイルの保有国になった。……

大陸間弾道ミサイル「火星-14」型発射の大成功は、朝鮮労働党の並進路線を絶対的に支持し、貫徹してきた偉大な朝鮮人民が成し遂げた高貴な獲得物であった。

総書記は、この成果に基づいて大陸間弾道ミサイル「火星-14」型の最大射程模擬試射を早急に行う戦闘的課題を提示し、連続攻撃の精神をもって今一度成功させるように導いた。

朝鮮の科学者・技術者たちは、わずか半月も満たない短期間に設計から始めて試射の各工程を具体的に検討・確認し、総書記の教え通りに試射の方法や場所、時刻を定めるなど、発射準備を完了した。

ついに2017年7月28日の夜、総書記の指導の下に大陸間弾道ミサイル「火星—14」型の2次試射が成功裏に行われた。

金正恩総書記は、国家核武力完成の歴史的勝利を勝ち取るために、新型のミサイル開発方向を示し、大陸間弾道ミサイル「火星—15」型兵器システムの完成を精力的に導いた。

朝鮮の軍需工業部門の労働者たちは短期間に9軸自走発射台車をつくり出し、国防科学者・技術者たちは創造的知恵と熱情を強く発揮して新型の大陸間弾道ミサイルを研究・開発した。

2017年11月28日、新型大陸間弾道ミサイルの試射準備が完了したという報告を受け、夜更けに現場に到着した総書記は、まず9軸自走発射台車を見た。

ついで発射現場に出向いて大陸間弾道ミサイルの垂直化など発射前の工程を細かに指導し、試射計画を確かめた総書記は、発射命令を下した。

瞬間、天地を揺るがす轟音と共に、チュチェ朝鮮の強力無比の力を象徴する大陸間弾道ミサイル「火星—15」型の巨大な胴体が火炎を噴き出しながら万里の蒼空に飛び立った。

その素晴らしい飛行雲を眺めた総書記は、今日は国家核武力完成の歴史的大業、ミサイル強国偉業が実現した意義深い日である、わが共和国の戦略的地位をより高く引き上げた偉大な力が誕生した今日は祖国の歴史に特記されるであろうと語った。

国家核武力完成の歴史的大業の実現のために尽くした総書記の賢明な指導は、戦略潜水艦弾道弾と地対地中・長距離戦略

弾道弾「北極星—2」型の開発・完成にも秘められている。

2018年4月20日、総書記は歴史的な朝鮮労働党中央委員会第7期第3回総会で、並進路線の偉大な勝利、国家核武力完成を全世界に宣言した。

この会議で総書記は、普通なら15〜20年がかかり、胆力と気概がなくては口にすることすらできない国家核武力建設という大業を5年もならない短期間に完成した奇跡的勝利は、朝鮮労働党の並進路線の偉大な勝利であると同時に、英雄的朝鮮人民のみが達成できる輝かしい歴史的勝利であると述べた。

金正恩総書記の賢明な指導の下に並進路線の勝利が達成されたことで、平和守護の強力な宝剣を手にするために困苦欠乏に耐えながら奮闘してきた朝鮮人民の闘争は立派に締めくくられ、代を継いで最も尊厳ある幸せな生活を享受できる確固たる保証をもたらすことができた。

2021年10月、朝鮮労働党創立76周年を記念して開催された国防発展展覧会「自衛—2021」は朝鮮が到達した国防科学、軍需工業の驚異的な発展ぶりと展望を示し、人々は展示された先端武力装備や戦闘技術機材から朝鮮の巨大な力を感じ取った。

北南関係と対外関係の新たな転換をもたらすために

金正恩総書記は、分断された祖国を統一し、民族万代の繁栄の道を切り開こうとする朝鮮民族の一致した念願を実現すべく心血を注ぎ、労苦を重ねた。

民族の団結はすなわち祖国の統一であり統一強国であるという歴史の哲理を深く洞察した金正恩総書記は、崇高な民族愛と大きな度量をもって、激変する情勢の要求に即して、北南関係の大転換方針を打ち出し、衝撃的な措置を次々と講じることで、最悪の状態に陥っていた北南関係を改善し、祖国統一の画期的局面を開いた。

大様な決断と頑強な実践をもって祖国統一の大路を先頭に立って開いてきた総書記の愛国献身によって、朝鮮民族は驚異的な現実を目撃するようになった。

金正恩総書記は国の対外関係発展のための新たなページを開いた。

激変する国際政治の厳しい動乱の中でも、自主的立場を堅持した総書記の精力的な対外活動によって、朝鮮半島の

情勢は新たな局面を迎え、国際政治の構図では大きな変化が生じるようになった。

朝鮮統一の新たな里程標

2010年代に入り、朝鮮半島の情勢は複雑を極めていた。

外部勢力が朝鮮の統一をあくまでも阻み、親米事大主義と同族対決を追求する南朝鮮の保守勢力が権力の座を占め、歴史的な6・15北南共同宣言と10・4宣言を全面否定し、その履行を回避して、民族の分裂は依然として続いた。

特に、民族の大国喪以降、保守勢力の悪らつな反共和国敵対行為は一層大々的に繰り広げられた。保守勢力は、民族の大国喪に顔を背け、南朝鮮人民の弔意表示を必死になって妨害する反人倫的・反民族的行為を働くばかりか、共和国の体制を中傷・冒涜し「恒例の」「防御的」という看板の下で北侵戦争演習を絶えず行って朝鮮半島の情勢を戦争の瀬戸際へ追い込んだ。

そのため、新世紀に入って好ましく発展していた北南関係は、朝鮮の統一を阻もうとする外部勢力の破廉恥な干渉とそれに追従する南朝鮮の保守勢力の卑劣な策動によって、6・15時代以前の険悪な破局状態へ逆戻りするようになった。

金正恩総書記は2012年4月15日、金日成主席の生誕100周年慶祝閲兵式で行った演説で、長きにわたって同じ領土で単一民族として暮らしてきたわが同胞が、70年近くも分断の苦痛をなめていることは実に胸の痛むことであるとし、わが党と共和国政府は、真に国の統一を願い、民族の平和・繁栄を望む人であれば誰とでも手を携え、祖国統一の歴史的偉業を実現するために責任をもって忍耐強い努力を傾注するであろう、と述べた。

そして、2013年の新年の辞でも、全民族の団結した力で三千里の国土に統一され繁栄する強国を打ち建てる自主的な統一の意志を明らかにした。

また、2015年の新年の辞をはじめとして機会あるたびに、南朝鮮当局は外部勢力とともに繰り広げる無謀な軍事演習をはじめ戦争策動を一切中止すべきであり、朝鮮半島の緊張緩和と平和的環境づくりに方向を転換すべきであると重ねて強調した。

全朝鮮民族を統一愛国闘争へと奮い立たせ、一日も早く統一された祖国を打ち建てようという総書記の意志と献身によって、2018年に3度にわたる北南首脳の対面と会談が行われた。

事実上、2017年末まで朝鮮半島の情勢は緊張と複雑を極

めていた。当時、共和国の自衛的な国防力の強化を阻むために強行されたアメリカとその追随勢力の悪辣な制裁・圧迫騒動と狂乱的な戦争挑発策動のため、北南間の不信と対決は一層激化し、国の平和を守り祖国統一を成し遂げるための朝鮮人民の前途にはより厳しい難関と障害がつくり出された。

刻一刻と戦争の瀬戸際に近づく重大な情勢変化の推移と日ごとに高まる同胞の統一の志向を深く洞察した総書記は、北南関係の改善と自主統一の突破口を開くための闘争を主動的かつ積極的に展開していった。

総書記は、2018年の新年の辞で、現下の情勢は北と南が過去に縛られることなく、北南関係を改善し、自主統一の突破口を開くための決定的な対策を立てていくことを求めているとし、北南間の先鋭化した軍事的緊張状態を緩和し、朝鮮半島の平和的環境をつくり出す問題、民族の和解と統一を志向する雰囲気を積極的につくり出す問題、北と南が民族自主の旗印を高く掲げる問題など、祖国統一の道に横たわる難局を打開するための断固たる北南関係の大転換方針を提示した。

この方針は内外の嵐のような反響を巻き起こした。

南朝鮮の各階層の人民は、「南北関係改善のための大胆な提案」「新年を迎えて民族に贈る大きな贈物」「予想を覆す破格の措置」と激賞して、熱烈に支持・歓迎した。南朝鮮の政界と各界の人士の間でも、「新年の辞の内容と表現が前例のないほど衝撃的なのでびっくりした」「実に破格の措置を盛り込んでいる」「非常に歓迎するに足る提案で、それに相応する立場を取らなければならない」という声がわき起こった。

南朝鮮のマス・メディアは、「北の2018年の新年の辞は、南北関係の改善に力点を置いた」「新年の辞の4分の1ぐらいが南北関係問題であり、関係改善の意志を明らかにしたことに注目が向けられる」などの大見出しで大々的に報じた。

新年の辞で北南関係改善の意志を明らかにした総書記は、民族の和解・団結と平和のための措置を次々と講じた。

まず、南朝鮮で開催される第23回冬季オリンピック競技大会に共和国の高位級代表団と芸術団、選手団と応援団など大規模の代表団を派遣して、破局的状態に陥っていた北南関係を民族の和解と団結、統一の雰囲気に変え、北南首脳の対面に有利な環境をつくり出した。

そして、平壌を訪れた南側の特使代表団に会い、わが民族同士で力を合わせてこれ見よとばかりに北南関係を強力

に前進させ、祖国統一の新しい歴史をつづっていこうというのが自身の確固たる意志であると表明し、北南首脳の対面に関する意見を交換し、実務的措置を速やかに講じるようにした。

2018年4月27日、歴史の地板門店で北南首脳の対面と会談が行われ、これは北南関係史上第3回目の首脳対面と会談として記録された。

金正恩総書記が歴史的な第3回北南首脳の対面と会談の場所を、民族分裂の暗雲が垂れ込め、双方の武力が最も鋭く対峙している板門店にし、自ら南側の地域に出向くことによって、分裂の象徴である板門店は平和の象徴となった。

歴史的なあの日、分裂と対決の歴史に終止符を打ち、平和と統一の新時代を開いていくという民族的な使命感と義務を今更のように痛感しているとし、今日その新しい歴史をつづるスタートラインにて信号弾を打ち上げようという心情を持ってここへやって来たという総書記の言葉は、全朝鮮民族を感激にひたらせた。

同日、記念植樹を行いながら総書記は、一身がそのまま元肥となって貴重なこの根を覆う土になろうとの心情、風雨を防ぐ風よけになろうという心構えで、この木と共に折角日の

目を見た北南関係改善の流れを立派に維持し、四季青々と繁る松の強靭さに劣らぬ強い精神をもって共に手を携えて未来を切り開いていこうと、深い意味を込めて語った。

そして、「平和の家」の芳名録につぎのような親筆を残した。

「新しい歴史はこれから。平和の時代、歴史の出発点で

金 正 恩

2018. 4. 27」

総書記は、対面と会談に上程された全ての議題で見解を同じくし、南側の当局者と共に「朝鮮半島の平和と繁栄、統一のための板門店宣言」に署名した。

歴史的な板門店宣言は、朝鮮半島の平和と統一を願う全同胞の一致した志向と要求に即して、北南関係の全面的かつ画期的な発展を遂げることによって、断たれた民族の血脈をつなぎ、共同繁栄と自主統一の未来を早める上で画期的な意義を持つ新しい里程標となった。

板門店宣言はまた、「わが民族同士」の理念と自主の原則を中核とし、全朝鮮民族の意思と願望に合致しており、朝鮮半島の平和と統一を願う国際社会の志向にかなう最も現実的かつ合理的な民族共同の綱領であり、金正日国防委員長によってもたらされた6・15共同宣言と10・4宣言を継承した新しい歴史的時代の統一綱領である。

総書記の提案により、朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議常任委員会は政令「平壌時間を直すことについて」を採択した。

これは、国の統一を早めようという総書記の崇高な統一愛国の決断であり、民族の和解・団結のための最初の実行措置であった。

歴史的な北南首脳の対面と会談、4・27宣言によって、11年間も止まっていた統一時計の秒針が再び回り始め、民族の和解・団結と平和・繁栄、統一の新しい歴史が始まった。

しかし、第3回北南首脳の対面以降、南朝鮮当局は板門店宣言を反故にし、外部勢力と結託して共和国を狙う最大規模の空中精密打撃訓練を強行するなど、無分別な対決騒ぎによって好ましく発展していた北南関係をまたもや危機に陥れた。

金正恩総書記は、第4回北南首脳の対面と会談を電撃的に発起した。

そうして、第3回北南首脳の対面と会談が行われた時からわずか29日ぶりに板門店では再び衝撃的な出来事が起こった。

2018年5月26日、板門店北側地域の統一閣で第4回北南首脳の対面と会談が行われたのである。

総書記は、第4回北南首脳の対面と会談で格式と枠にとらわれず、重大な懸案について率直な対話を行った。

会談ではまず、第3回北南首脳の対面で合意した板門店宣言を速やかに履行し、朝鮮半島の非核化と地域の平和と安定、繁栄を実現するために解決すべき諸問題と、北と南が直面している問題、朝米首脳会談の開催を成功させる問題について深みのある意見が交換された。

また、全同胞の一致した熱望がこもった板門店宣言が一日も早く履行されるように双方が互いに信頼し配慮し、共同で努力することについて、北南高位級会談を来る6月1日に開催し、ついで軍事当局者会談や赤十字会談をはじめとする部門別会談の開催も加速化する問題について合意をみた。

そして、6月12日に予定されている歴史的な朝米首脳会談に対する確固とした意志を披瀝し、朝米関係の改善と朝鮮半島の恒久的かつ強固な平和システムの構築のために、今後も積極的に協力していこう、と語った。

朝鮮半島の情勢が劇的な転機を迎えている時に板門店で行われた第4回北南首脳の対面と会談は、内外の反統一勢力の挑戦がいかに悪らつで、周辺の情勢がどう変わろうともわが民族同士の志と力を合わせれば、北南関係の改善と朝鮮半島の平和・繁栄を目指す道を開くことができることを

明白に示し、全同胞に新しい希望と活力を与えた。

2018年4月と5月についで、新たな転換の道に入った北南関係を強固にし、歴史的な板門店宣言の履行を加速化して祖国統一の全盛期を開こうとする総書記の祖国統一の意志は、第5回北南首脳の対面という歴史的な出来事をもたらした。

歴史的な第4回北南首脳の対面以降、板門店宣言の履行のための実践的活動が積極的に進められ、北南関係の発展においては類のない大きな前進が遂げられた。

北南間に板門店宣言の履行のための高位級会談や赤十字会談、スポーツ、鉄道、道路をはじめとする多くの分野における部門別実務会談が行われ、軍事的緊張の緩和と戦争危険の解消のための軍事会談と接触も活発に行われた。

北と南のスポーツ選手たちが第18回アジア競技大会をはじめとする国際競技に共同で出場して、民族の英知と才能、団結した姿を全世界に誇示し、北南統一バスケットボール試合と北南労働者統一サッカー大会が盛大に行われて、民族の和解と統一の熱気を一段と盛り上げた。

金正恩総書記は2018年9月5日、南側の特使代表団に会い、南側当局者の平壌訪問提議を受け入れた。

2018年9月18日、平壌では第5回北南首脳の対面と会談が行われた。

両日にかけて行われた会談では、板門店宣言を全面的に忠実に履行して、北南関係の進展をさらに加速するための諸問題についての深みのある意見が交わされた。

また、歴史的な板門店宣言を正確に履行するとの双方の意志を再度確認し、その実行上堅持すべき重要な問題および具体的な対策案を定立し、北と南が当面取るべきいくつかの実践的措置について合意した。

総書記は、2度にわたる北南首脳の対面と会談以降、肯定的かつ立派に発展している北南関係について高く評価し、相互の関心事となっている重要問題について率直かつ虚心坦懐な意見を交わした。

総書記は、9月19日、南側当局者の宿所である百花園迎賓館を訪れて、第2日会談を行った。

会談では、互いに心と志を合わせて相手方を尊重し信頼する立場と姿勢をもって誠実に努力することで、敵対と対決が激化していた北南関係を画期的に転換させ、驚くべき変化と実りを生んだ貴重な成果と経験に基づいて、今後も和解と協力の時代にふさわしく、今日の関係発展を確実に裏づける措置を引き続き講じていく方途問題が話し合われた。

総書記は、南側当局者と共に「9月平壌共同宣言」に署名した。

2000年6月15日と2007年10月4日についで、11年ぶりに平壌で行われる歴史的な北南首脳の対面と会談でどういう問題が討議され、どんな文書が採択されるかは内外の大きな関心事となっていた。

当時、平壌での北南首脳の対面について、アメリカ、イギリス、フランス、日本をはじめとする西側のメディアは、「文在寅にとって今回の首脳会談は、金正恩委員長とのこれまでの会談に比べて最も挑戦的な会談となるであろう」と評した。

南朝鮮の一部のメディアも、平壌での北南首脳会談の最優先的な目標は北南関係の改善ではなく、非核化にあると報じた。

しかし、金正恩総書記は、9月平壌共同宣言が徹頭徹尾「わが民族同士」の精神が貫かれながらも、歴史的な板門店宣言を履行して北南関係を新たな高い段階へと前進させる上で加速作用をする重要な文書になるようにした。そうして、数十年間も実現できなかった問題がわずか数時間の首脳対面によって一挙に解決される奇跡的成果を上げるようになった。

平壌での対面と会談を契機に、朝鮮半島の軍事的敵対関係を解消し、軍事的信頼関係を築く上で重要な意義を持つ北南軍事分野合意書も採択された。

9月平壌共同宣言とその付随合意書である北南軍事分野合意書は、全同胞の一致した志向と要求に即して4・27板門店宣言を全面的かつ忠実に履行して北南関係の発展をさらに加速化し、民族の和合・団結と平和・繁栄の新たな全盛期を切り開く上で重要な里程標となった。

対外関係発展の新たなページを開いて

金正恩総書記は、世界各国との善隣・友好関係、親善・協力関係を新時代の要求に即してさらに拡大・発展させた。

2018年3月に電撃的に行われた金正恩総書記の初の中華人民共和国訪問は、朝中両国の老世代指導者たちによって築かれた誇るべき歴史と伝統を代を継いで継承し、社会主義の偉業を目指す聖なる共同闘争で結ばれた友好的な朝中関係をより新たな高い段階に拡大・発展させる上で重大な契機となった。

中国共産党中央委員会総書記・中華人民共和国主席であ

る習近平同志は、金日成主席が毛沢東、周恩来、鄧小平同志と友好の情を交わした釣魚台国賓館養源斎で金正恩総書記との親交を厚くした。

これと関連して、中国の関係者たちは、歴代の中国の指導者たちは朝鮮の領袖たちへの尊敬と欽慕の念を込めて、外交慣例を破り養源斎で兄弟的かつ家庭的な雰囲気の中に会談を行った、今回、習近平主席が中朝親善の歴史がありありと記されている養源斎で、それも夫人を伴って午餐を特別に準備したのは、金正恩総書記への最大の礼遇となると語った。

中国を訪問する金正恩総書記に贈った贈物と歓迎宴で行われた公演は、金正恩総書記に対する習近平主席の最大の誠意の表示であった。

習近平主席は、中国を訪問する金正恩総書記に、中国で有名な大型景泰藍と最高級酒である茅台酒、磁器茶碗、宝石箱など誠意を尽くして用意した多くの珍しい贈物を贈った。

中国の一幹部は、「習近平主席は金正恩総書記に誠意を込めて用意した景泰藍を贈ったが、それを見ても、習近平主席が金正恩総書記をどれほど欽慕し、尊敬しているかがよく分かる」と言った。

金正恩総書記は、習近平主席との対面と会談を通じて、親善の歴史と伝統を固守し、戦略的な意思疎通と同志的な親善関係を拡大・発展させることのできる強固な土台を築いた。

2018年5月初めの中国大連の訪問についで6月に再び中国を訪問した金正恩総書記の精力的な対外活動は、朝中交流史上、世界外交史上かつてないものであり、不抜の朝中親善関係をはっきり示した歴史的な出来事であった。

金正恩総書記は、朝中外交関係樹立70周年に当たる2019年1月にも中国を再び訪問し、伝統的な朝中親善関係をさらに厚くした。

金正恩総書記は、習近平主席との会談で、朝中両党・両国間の親善と団結、交流と協力を強化・発展させることと、両国の党と政府が堅持している自主的立場について、共通の関心事となる国際及び地域問題について深みのある意見を交換し、2019年度に政治、経済、軍事、文化をはじめとする各分野で高位級相互往来の伝統を拡大・発展させていくための新しい計画について合意した。

2019年6月、習近平主席が金正恩総書記の招きによって朝鮮を国家訪問し、朝中両国間の親善関係をさらに強化した。

金正恩総書記は、訪朝した習近平主席との対面と会談を通じて、社会主義こそ朝中親善の変わらぬ核心であり、力を合わせて社会主義を固守し輝かせていくところに朝中親善の特殊性と不敗性があるという真理を再確認し、今後も一致団結して社会主義偉業の前進を遂げるための闘いで必ず輝かしい勝利を獲得するであろうとの確信を表明した。

金正恩総書記は、朝鮮とキューバ両国人民の親善関係をさらに発展させるための対外活動を精力的に繰り広げた。

2016年6月、訪朝したラウル・カストロ・ルス・キューバ共産党中央委員会第1書記の特使とその一行に会って談話を交わした金正恩総書記は、朝鮮とキューバは地理的に遠く離れているが、帝国主義に反対する共同闘争の同じ戦列に立っており、キューバの党と政府、人民の側には常に朝鮮労働党と政府、人民がいるとし、今後、朝鮮とキューバの両党・両国間の伝統的な親善・協力関係はさらに拡大・発展するであろうとの確信を表明した。

朝鮮とキューバ間の親善・協力関係を重視した金正恩総書記は、2016年11月28日、キューバ革命の最高指導者フィデル・カストロ・ルス同志の逝去に際し、駐朝キューバ大使館を訪れて深い哀悼の意を表示し、弔意録に次のように

書き残した。

「卓越した指導者は逝去したが、その名前と業績はわれわれの記憶の中に永遠に生き続けるであろう。

偉大な同志、偉大な戦友を失った痛みを胸に秘めて

金 正 恩」

金正恩総書記は2018年11月、朝鮮を訪問したミゲル・ディアスカネル・キューバ共和国国家評議会議長兼内閣首相と対面し、朝鮮とキューバ間の親善関係を一層強化・発展させた。

金正恩総書記は、ミゲル・ディアスカネル議長と一緒に公演を観覧し、盛大な宴会を催し、党中央委員会の本部庁舎で談話や夕食会を共にし、歓送もした。

金正恩総書記は、ミゲル・ディアスカネル議長との談話で、両国の偉大な領袖たちが革命的原則と同志的信義、社会主義的原則に基づく特殊な親善関係の基盤を築き、発展させてきたことと、新たな情勢と環境の中でも双方の共同の努力によって両国間の友好の歴史と伝統が変わることなく受け継がれ、一層発展していることを高く評価した。

そして、今後も両党、両国間の戦略的かつ同志的な親善・協力関係を今日の新時代の要請に即してさらに拡大・

強化していくという両国の党と政府の確固不動の立場と意志を表明した。

金正恩総書記は、ベトナム人民との兄弟的友好関係を立派に継承し、新たな全盛期を切り開くために、ベトナム社会主義共和国に対する歴史的な親善訪問を行い、朝鮮とベトナム間の友好を新時代の要求に即してより高い段階へと促した。

金日成主席とベトナムのホー・チ・ミン主席との気高い同志的信義と厚い友誼に基づいている朝鮮とベトナム間の友好は、社会主義偉業の遂行のための道程で一層強固になった。

2019年3月、ベトナム社会主義共和国を親善訪問した金正恩総書記は、ベトナムの党・国家指導幹部との会談で、先代の領袖たちの志を体し、血潮をもって結ばれた両国・両党間の友好・協力関係を代を継いで継承していく朝鮮労働党と政府の一貫した立場について明らかにし、党及び政府レベルの往来を活発に行い、経済、科学技術、国防、スポーツ、文化芸術、出版・報道など各分野における協力と交流を正常化し、新たな高い段階へと発展させていくための諸問題について討議した。

金正恩総書記は、朝ロ両国間の親善関係を新時代と新た

な情勢の要求に即してより一層発展させるために、2019年4月、ロシア連邦を訪問し、朝ロ関係発展の新たな全盛期を開いた。

プーチン大統領は、首都モスクワから陸・海・空軍儀仗隊と軍楽隊、ロシアの有名な中央級芸術団体をウラジオストックに連れてきて金正恩総書記を熱烈に歓待した。

金正恩総書記はロシア訪問期間、プーチン大統領と朝ロ親善関係の発展と、朝鮮半島と地域の平和と安全保障のための問題、そして共通の関心事となっている国際問題について虚心坦懐かつ意義深い対話を交わし、戦略的で伝統的な朝ロ親善関係を新たな高さで新世紀の要求に即して絶えず強化・発展させていこうとするのは共和国政府の確固不動の立場であり、戦略的方針であると表明した。

金正恩総書記は電撃的で果敢な対外活動によって、歴史に特記すべき未曽有の出来事をもたらした。

金正恩総書記は、3回にわたる朝米首脳対面と会談を断行して、朝米関係の新しい歴史を切り開いた。

歴史的に見て、アメリカは堂々たる主権国家である朝鮮民主主義人民共和国を認めず、絶え間ない戦争脅威と前代未聞の経済制裁や封鎖をもって朝鮮を圧殺することを国策としてきた。

歴代のアメリカ政府がそうであったように、トランプ政権もやはり朝鮮を圧殺する企図を隠そうとしなかった。朝鮮の自衛的国防力の強化に難癖をつけて制裁を加えていたトランプは、しまいには国連をはじめ公式の場や個人ツイッターまで動員して、「火炎と憤怒」「北の完全破壊」「戦争も辞せず」「嵐の前の静けさ」「唯一の選択」などと核戦争を既定事実とする暴言を憚らなかった。

核の棍棒を振りかざして朝鮮の自主権と生存権、発展権をことごとく抹殺しようとするアメリカの強盗さながらの侵略策動に果敢に立ち向かい、核をもって総決算する揺るぎない胆力と意志を持った金正恩総書記は、新たな並進路線を打ち出し、千辛万苦の献身によって、2017年に遂に国家核武力完成の歴史的大業を成し遂げた。

結果、朝米間の戦略的構図は、朝鮮に対するアメリカの一方的な核威嚇・恐喝から、朝鮮が核をもってアメリカを実際的に威嚇するものに変わった。

そのため、「最大の圧迫と関与」を対朝鮮政策として持ち出したトランプ政権にとって、朝鮮問題は看過できないこととなり、自国の地にいつ飛んでくるか分からない朝鮮の核兵器に対するアメリカ人の恐怖症を解消するのは、最優先の政策的課題となった。

アメリカ人の安保上の不安を解消して2018年11月の国会中間選挙での勝利を狙っていたトランプ政権としては、否応なしに朝鮮と対座しなければならなくなった。

こうして、トランプ政権は核を放棄しない限り朝鮮を認めることも、対座することもないだろうと公言した従来の立場を変えて、朝鮮との対話の場に出ざるを得なかった。

2018年3月末、トランプは米中央情報局局長・国務長官内定者のポンペオをひそかに特使として朝鮮に派遣する措置を講じ、ついで5月初めには、米国務長官に正式に就任したポンペオを朝米首脳会談準備のために平壌に再び送った。

5月9日、金正恩総書記は訪朝したポンペオ国務長官に会った。

ポンペオ国務長官は金正恩総書記に、トランプ大統領の口頭メッセージを丁重に伝えた。

トランプ大統領の口頭メッセージを聞いた金正恩総書記は、大統領が対話による問題解決に深い関心を持っていることを高く評価し、謝意を表した。

金正恩総書記はポンペオ国務長官と、全世界の焦眉の関心事となっている鋭い朝鮮半島地域の情勢についての評価

と見解、朝米首脳会談に関する両国最高指導部の立場と意見を交換した。

そして、来たる朝米首脳の対面と会談が朝鮮半島の肯定的な情勢発展を促し、素晴らしい未来を建設するための立派な第一歩を踏み出す歴史的な対面になるであろうと言った。

また、反共和国敵対行為を働いて朝鮮に抑留されているアメリカ人を釈放してほしいというアメリカ大統領の公式提起を受諾し、特赦を施して送還するようにした。

トランプは、ポンペオの平壌訪問に関するニュースを聞くや否や即時閣議を招集し、朝米首脳会談を控えて金正恩指導者を有り難く思うと言った。

そして、空港へ出向いてポンペオと釈放されたアメリカ人を直接迎え、所感を聞く記者たちに、金正恩委員長に再三感謝の意を表したい、今後どんなことが起こるか見てみよ、大きな成果を得るであろう、必要な時には平壌にも行くことにすると言った。

アメリカ政府は、金正恩委員長が抑留されているアメリカ人を釈放したことにトランプ大統領は大変感謝しており、これを肯定的な善意の表示と見なしているという内容の声明を別途に発表し、スポークスマンを通じてこれを繰り返した。

いよいよ全世界が待ちかねていた歴史的な瞬間が到来した。

金正恩総書記は、アメリカ大統領との歴史的な初対面と会談のために、6月10日午後3時、シンガポール共和国に到着した。

総書記は6月12日、現地時間で8時10分、宿舎を発って会談場のシンガポールのセントサ島のカペラホテルに到着した。

9時にはトランプ大統領と対面し、初の握手を交わした。

この時、トランプが金正恩総書記に国家元首としての丁重な握手を求めたのは、内外の耳目を集め、トップニュースとなった。

元々、トランプには外国元首と握手する時、相手が当惑するほど手を強く握ったり、引きつけたりする悪癖があった。

以前、トランプは欧州の同盟国の元首と握手する際もその悪癖のため多くの非難を受けていた。

それゆえ、朝米首脳会談の前から握手のことはメディアの焦点となっていた。ところが、シンガポール朝米首脳対面の際には、自分の手を伸ばして金正恩総書記と優しく握手をした。

これについてメディアは、今回トランプ大統領は金正恩

委員長の手を軽く取って撫でるなど、前例のない姿を見せた、無礼な握手で悪名高い彼が金正恩委員長には度を越すほど優しかった、トランプ大統領は金正恩委員長に、新しい「トランプ式握手」をもって自分ができる最高の礼儀を表した、と報じた。

金正恩総書記は、朝鮮半島が分断され、対立と反目の歴史が流れて70余年ぶりに初めて敵対国のアメリカ合衆国の大統領に会って和解に向けた第一歩を踏み出し、対話の場に向かい合った。

金正恩総書記とトランプ大統領との単独会談が行われた。

総書記はまず、今日ここへたどり着く道のりが決して容易でなかったとし、過去の歴史がわれわれの足をつかみ、誤った偏見と慣行がわれわれの目と耳を塞ぎもしたが、その全てを果敢に踏み砕いてこの場にまで至り、新たなスタートラインに立つことになったという意味深い発言をした。

そしてトランプ大統領と、数十年間持続してきた朝米間の敵対関係に終止符を打ち、朝鮮半島に平和と安定を定着させる上で重要な意義をもつ実践的問題について率直な意見を交わした。

金正恩総書記とトランプ大統領との単独会談についで拡大会談が行われた。

会談では、新しい朝米関係の樹立と朝鮮半島における恒久的かつ強固な平和体制の構築に関する問題について包括的かつ深みのある論議が行われた。

総書記は、トランプ大統領以下アメリカ側代表団と席を共にしたことを喜ばしく思うとし、敵対的な過去を不問に付して対話と協商を通じた現実的な方法で問題を解決しようとするトランプ大統領の意志と熱望を高く評価した。

トランプ大統領は、今回の首脳会談が朝米関係の改善へとつながるものとの確信を表明し、金正恩委員長が本年の冒頭から取った主動的かつ平和愛好的な措置により、わずか数カ月前までも軍事的衝突の危機が極限に達していた朝鮮半島と当該地域に平和と安定の雰囲気が到来するようになったと評価した。

総書記は、両国の間に存在する根深い不信と敵対感情から多くの問題が生じたとし、朝鮮半島の平和と安定をもたらし、非核化を実現するためには、両国が互いに理解し合ってこれ以上敵視しないことを約束し、このことを裏打ちする法的・制度的措置を取るべきだと語った。

また、朝米双方が早期に今回の会談で討議された問題と共同声明を履行するための実践的措置を積極的に取る必要があると語った。

そして、トランプ大統領が提起した米軍人遺骨の発掘及び送還の要請を即座に受け入れ、この問題の速やかな解決対策を講ずるよう当該幹部に指示した。

総書記は、朝鮮半島に恒久的かつ強固な平和体制を構築するのが地域と世界平和と安全保障に重大な意義を持つとし、差し当たって相手を刺激し、敵視する軍事行動を中止する勇断を下さなければならないと言った。

トランプ大統領はこれに理解を示し、朝米間に善意の対話が行われる間、朝鮮側が挑発と見なす米国・南朝鮮合同軍事演習を中止し、朝鮮民主主義人民共和国に対する安全保障を提供し、対話と協商による関係改善の進展に伴って対朝鮮制裁を解除することができるとの意向を表明した。

総書記は、アメリカ側が朝米関係改善のための真の信頼構築措置を取るならば、朝鮮もそれに応じて引き続き次の段階の追加的な善意の措置を取ることができるという立場を示した。

金正恩総書記とトランプ大統領は、朝鮮半島の平和と安定、朝鮮半島の非核化を実現していく過程で、段階別の同時行動原則を守ることが重要であると認識を同じくした。

この日、朝米首脳と双方の会談メンバーが参加する昼食会が催された。

昼食会では、朝米会談の成果を強固なものにし、朝米関係を画期的に発展させるために、双方間の意思疎通と接触・往来をより活性化することについて意見が交わされた。

昼食会後、金正恩総書記とトランプ大統領は散策をしながら親交を厚くした。

金正恩総書記とトランプ大統領は歴史的なシンガポール首脳会談共同コミュニケに署名した。

総書記は、今日は過去を不問にして新しい出発を告げる歴史的な共同コミュニケに署名することになるとし、世界は重大な変化を目撃することになるだろうと言った。

全世界の熱烈な支持と歓迎の中で行われた朝米首脳の初の対面と会談に関するニュースは、全世界に大きな衝撃を与えた。

世界の多くの国は、朝米首脳の対面と会談が朝鮮半島と地域に到来している和解と平和、安定と繁栄を目指す歴史的な流れを一層加速し、最も敵視し合っていた朝米両国の関係を発展する時代の要請に即して画期的に転換させていく上で重大な意義を持つ大きな出来事であるとし、熱烈に歓迎した。

金正恩総書記は、2019年2月末、ベトナムの首都ハノ

イで再びトランプ大統領と対面し、第2回朝米首脳会談を行った。

両日にかけて行われたこの会談で総書記は、6・12朝米共同声明を履行するために必ず経なければならない必須の段階と手順を朝米双方の利害に合致するように設定し、より重みと信頼性のある措置を講じるという決心を披瀝し、アメリカの呼応を期待した。しかしアメリカは、明確な方向や方法論もなしに、まったく実現不可能な方法にのみ頭を使って会談に臨んだ。

一言でいって、アメリカには朝鮮と対座して問題を解決していく準備ができていなかった。

総書記は会談で自主的芯を確固と堅持し、朝鮮の利益を侵す問題はどれ一つも譲歩しなかった。

第2回朝米首脳会談後、金正恩総書記は朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議第14期第１回会議で行った施政演説で、朝米間に根深い敵対感情が存在している状況の下で、6・12朝米共同声明を履行していくためには、アメリカが今の計算法を捨て、新しい計算法をもってわれわれに近寄ることが必要であると明かにした。

トランプは、日本・大阪滞留中の2019年6月29日、ツイッターを通じて南朝鮮を訪問する機会に金正恩総書記とたった2分間でもよいから対面したいという自分の所望を披瀝した。

トランプの提案についての報告を受けた金正恩総書記は、アメリカ大統領がわが国の玄関先にまで来て対面することを要請するのだから、会うのが人間としての道義であるとし、必要な実務的対策を講じるようにした。

こうして、トランプの首脳対面の意思に関する外務省第１副相の名による朝鮮の立場が発表された。

すると、トランプは板門店での朝米首脳対面に関する公式立場を朝鮮に通報し、朝米間には実務接触が行われた。

アメリカ側は実務接触で、トランプ大統領は朝米首脳の対面ばかりでなく拡大会談まで予定していると言った。朝鮮側がアメリカの要求を一蹴すると、アメリカ側は、朝鮮側の要求を全部受け入れるから板門店での首脳対面だけはなんとか実現できるようにしてほしいと言った。

元々首脳対面は、安全保障や儀礼上においても複雑な問題が提起されるので、数カ月前から、少なくとも2〜3日前から準備してこそ実現できる国家間の最大重大事である。

しかし、１日間という短い時間にひたすら祖国と人民の運命と国の利益のみを考えた総書記は、一身の危険を顧みずトランプとの対面を決心し、板門店に出向いた。

総書記と対面したトランプは、板門店分離線を越えて北側地域に足を踏み入れる瞬間、ツイッターに載せた提案に金正恩委員長が応じてくれなかったら、自分は恥じ入ったかも知れないとし、謝意を表した。たった2分間の対面というトランプの要請によって始まった板門店での朝米首脳対面は、実務接触では15分間に延ばされ、実際にはトランプの要請によって1時間余り続いたのである。

総書記は、板門店首脳対面の過程で大らかな雅量と包容力を見せながらも、会談に入っては自主的かつ原則的な立場を堅持した。

板門店での朝米首脳会談のニュースに全世界が沸き立った。

このように、3回にわたる朝米首脳会談は、金正恩総書記の偉人像を全世界に示し、国際政治構図の中心に確固たる位置を占めた朝鮮の絶対的地位を示した一大出来事であった。

金正恩総書記の精力的な対外活動によって、朝鮮は自主的芯を確固と堅持するとともに、朝鮮の自主権を尊重し、朝鮮を友好的に遇する国々と各レベルの往来と交流、協力関係を積極的に発展させ、自主・平和・親善へ向かう国際的流れを積極的に促すようになった。

＊　＊　＊

すぐる10年間は、金正恩総書記が人民の幸せと国の富強・繁栄のために自身の全てをささげてきた献身の日々であった。

朝鮮人民は今後も、人民のために献身の道程を歩み続ける金正恩総書記の指導の下に進めば勝利と栄光のみがあるという揺るぎない信念と楽観に満ちている。

輝かしい功績の10年

執　筆：金光徳
編　集：卓成日
翻　訳：李成洛
発　行：朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社
発行日：チュチェ111(2022)年4月

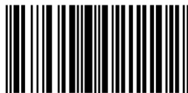
E-mail：flph@star-co.net.kp
http://www.korean-books.com.kp








내나라


ISBN 978-9946-0-2110-2
9 789946 021102 >